

資 料 編

資 料 編 目 次

1. 加西市歴史年表	1
2. 各地区の歴史文化遺産	5
北 条 地 区	6
富 田 地 区	14
賀 茂 地 区	18
下 里 地 区	22
九 会 地 区	29
富 合 地 区	37
多 加 野 地 区	43
西 在 田 地 区	49
在 田 地 区	51
3. 町・区アンケート調査	57

1. 加西市歴史年表

表1 加西市歴史年表（1／4）

時代	西暦	元号	日本	加西市
旧石器時代	BC8000			亀ノ倉遺跡（豊倉）でナイフ形石器・細石器・搔器等が出土する。
縄文時代	300		稲作・金属器の使用が始まる	岡田遺跡（谷・西谷町）で多量の石器が製作される。
弥生時代	AD100		卑弥呼が魏に使いを送る	野間遺跡（中富町）で木棺墓等がつくられる。
	300			長塚遺跡（上宮木・豊倉）で大規模な集落が営まれる。
古墳時代	400			小谷遺跡（小谷）で、大規模な集落が営まれる。 周遍寺山1号墳（網引）で四隅突出墓が築造される。
	500			玉丘古墳群（北条・玉丘・笹倉・玉野）が築造され始める。 亀山古墳（笹倉）が築造される。 この頃から市内各地に古墳が築造される。
飛鳥時代	538		仏教が伝わる	後藤山古墳（倉谷）・愛染古墳（佐谷）が築造される。
	645	大化元年	大化の改新	
				殿原・繁昌・吸谷に寺院が建立される。 古法華石仏・乎疑原神社石造五尊像がつくられる。
奈良時代	710	和銅3年	都が平城京に遷される	
	715	霊龜元年		『播磨国風土記』がつけられる。
	734	天平6年		播磨既多寺で『大智度論』の写経が行われる。
	752	勝宝4年	東大寺大仏が建立される	
				野条に寺院が建立される。
平安時代	794	延暦13年	都が平安京に遷される	
	1059	康平2年		賀茂郡、東・西に分郡される。
	1161～1163	応保年間		酒見社（住吉神社・酒見寺）で播磨六カ寺（一乗寺・普光寺・圓教寺・随願寺・神積寺・八葉寺）による酒見講が始まる。 池大納言平頼盛が在田荘を賜る。
	1171	承安元年		一乗寺三重塔が建立される。
	1180	治承4年	源平の争乱がおこる	
	1185	文治元年	平家が滅ぶ	この頃、江ノ上経塚がつけられる。
鎌倉時代	1221	承久3年	承久の乱	在田荘が池家から没収される。
	1283	弘安6年		慈眼寺境内に石造塔婆が建立される。
	1316	正和5年		一乗寺に石造笠塔婆が建立される。
	1321	元亨元年		一乗寺に石造五輪塔が建立される。
	1327	嘉暦2年		清慶寺境内に石造宝篋印塔が建立される。
	1333	元弘3年	鎌倉幕府が滅ぶ	護良親王が西河合荘を河内金剛寺へ寄進する。 後醍醐天皇が一乗寺へ行幸する。
	1336	建武3年		湊川の戦の際、足利軍が周遍寺に逗留する。

表2 加西市歴史年表（2／4）

時代	西暦	元号	日本	加西市
室町時代	1338	延元 3 年	足利尊氏が京都に幕府を開く	
	1364	貞治 3 年		酒見寺の梵鐘を鋳る。
	1392	明德 3 年	南北朝統一	
	1395	応永 2 年		成田(安保)道成が須富荘北方地頭職を祇園社に寄進する。
	1420	応永 27 年		市余田代官に山下将監入道が任命される。
				室町時代から安土桃山時代にかけて、河内城・満久城・善坊山城・小谷城等が築造される。
	1441	嘉吉元年	嘉吉の乱	嘉吉の乱で赤松氏が滅ぶ。
	1457	長祿元年	長祿の変	中村氏らの活躍で、後南朝から神璽をとり返す。
	1467	応仁元年	応仁の乱	
	1496	明応 5 年		播磨守護赤松政則が坂田荘久斗寺にて死亡する。
				この頃、日吉神社七社立会神事が始まる。
	1539	天文 8 年		播磨守護赤松政村、西河合内の中村与次郎の所領を没収して、別府源三郎に与える。
安土・桃山時代	1543	天文 12 年	鉄砲が伝わる	
	1572	元亀 3 年		この頃、石工作業所と推定される長塚遺跡（繁昌）が営まれる。
	1573	天正元年	室町幕府が滅ぶ	
	1578	天正 6 年		三木合戦が開始され、加西の土豪も三木城に詰める。
	1582	天正 10 年	本能寺の変	
	1585	天正 13 年	豊臣秀吉が全国を統一	
	1594	文祿 3 年		加西の蔵入米が秀吉の朝鮮出兵の経費にあてがわれる。
江戸時代	1600	慶長 5 年	関ヶ原の戦い	池田輝政が姫路に入封し、播磨一国を領す。
	1603	慶長 8 年	徳川家康が江戸に幕府を開く	
	1616	元和元年	大坂夏の陣	
	1620	元和 6 年		日吉神社の鳥居が建立される。
	1628	寛永 5 年		一乗寺本堂が再建される。
	1629	寛永 6 年		一乗寺鐘楼が再建される。
				この頃、鶉野台地の開墾が始まる。
				この頃、戦火で焼けた寺社の再建が始まる。
	1662	寛文 2 年		酒見寺多宝塔が建立される。
	1667	延宝 5 年		国正村より五領新田村が分村する。
	1681	延宝 9 年		高田六郎右衛門政恒、周遍寺を再興する。
	1684	貞享元年		網引八幡神社に能舞台が建立される。
	1685	貞享 2 年		青野村が鍛冶屋村より分村する。
				この頃、高室芝居が初演される。
	1695	元禄 8 年		「吉野文書」の筆録が始まる。
	1702	元禄 15 年	赤穂浪士討ち入り	
				この頃、奥村将監が磯崎神社（下道山）神宮寺に身を寄せる。
	1709	宝永 6 年		横田才ノ池の鐘堀り雨乞いの行事が始まる。

表3 加西市歴史年表（3／4）

時代	西暦	元号	日本	加西市
江戸時代	1716	享保元年	徳川吉宗の享保の改革	
	1717	享保2年		小印南村が田谷村より分村する。
	1723	享保8年		青野原新田の開発に着手する。
	1724	享保9年		任せ溝が完成する。
	1762	宝暦12年		天下溝が完成する。
	1787	天明7年	松平定信の寛政の改革	
	1814	文化11年		伊能忠敬が北条を通過する。
	1827	文政10年		各地の惣代が集まり、播磨国集会所が開かれる。
	1841	天保12年	水野忠邦の天保の改革	
	1853	嘉永6年		徳岡天然が郡内で種痘を開始する。
	1867	慶応3年	大政奉還	
明治	1868	明治元年	明治維新	
		明治12年		加西郡が設置される。
	1887	明治20年		網引八幡神社に獅子舞が伝わる。
	1888	明治21年		町村制の導入により、郡内に1町10村が誕生する。 青野原に軍馬育成所を設置する。
	1889	明治22年		加西郡勸業会が設立される。
	1894	明治27年	日清戦争	
	1900	明治33年		加西郡立図書館が設立される。
	1903	明治36年		古坂トンネルが開通する。 横田村出身の松尾臣善が第6代日本銀行総裁に就任する。
	1904	明治37年	日露戦争	
	1907	明治40年		飯盛野疎水が通水する。
大正	1914	大正3年	第1次世界大戦	北条幼稚園が開園する。
	1915	大正4年		播州鉄道の粟生・北条町間が開通する。 青野原俘虜収容所を開設する。
	1918	大正7年		北条自動車株式会社によるバス事業が始まる。
	1919	大正8年		飯盛野に種羊牧場が開設される。
	1923	大正12年	関東大震災	播州鉄道を播丹鉄道に譲渡する。
昭和	1926	昭和元年		加西群出身の大谷武一らがラジオ体操第一を作る。
	1937	昭和12年	満州事変	
	1941	昭和16年	太平洋戦争が始まる	
	1942	昭和17年		鶉野台地に姫路海軍航空隊設置につき工事始まる。
	1943	昭和18年		播丹鉄道を国が買収国有化する。 鶉野飛行場を開設する。
	1945	昭和20年	太平洋戦争が終結する	網引駅西方で飛行機事故により、列車転覆死者多数。
	1947	昭和22年		三洋電機製作所が北条で創業する。

表4 加西市歴史年表（4／4）

時代	西暦	元号	日本	加西市
昭和	1950	昭和 25 年	文化財保護法の制定	
	1954	昭和 29 年		大和村が加西郡から分かれて多可郡八千代町へ。 芳田村が加西郡から分かれて西脇市へ。
	1955	昭和 30 年		北条町、富田村、賀茂村、下里村が合併して北条町となる。 多加野村、西在田村、在田村が合併して泉町となる。 九会村、富合村が合併して加西町となる。
	1967	昭和 42 年		北条町、加西町、泉町が合併して加西市となる。
	1976	昭和 51 年		兵庫県立フラワーセンターが開園する。
	1977	昭和 52 年		第 1 回加西サイサイまつりを開催する。
	1985	昭和 60 年		第 3 セクター方式による北条鉄道株式会社が開業する。
平成	1992	平成 4 年		中国自動車道加西インターチェンジが開通する。
	1995	平成 7 年	阪神・淡路大震災	
	2001	平成 13 年		玉丘史跡公園が完成する。
	2011	平成 23 年	東日本大震災	
	2012	平成 24 年		北条地区歴史的景観形成地区が指定される。
	2015	平成 27 年		播磨国風土記 1300 年祭を開催する。 青野原俘虜収容所開設 100 周年事業を実施する。
	2016	平成 28 年		鵜野飛行場跡地が国より払い下げられる。
	2017	平成 29 年		古代鏡展示館（兵庫県立考古博物館加西分館）が開館する。
	2018	平成 30 年		「加西市歴史文化基本構想」を策定する。

2. 各地区の歴史文化遺産

ここでは、市内9地区ごとに、加西市の関連文化財群（歴史文化ストーリー）を構成する主要な歴史文化遺産を「歴史文化遺産一覧表」として整理する。

各地区には、この他にも数多くの歴史文化遺産が存在する。ここであげる主要な歴史文化遺産を参考にしながら、各地区で歴史文化遺産の掘り起こしを進め、関連文化財群の検討等を進めていくことが求められる。

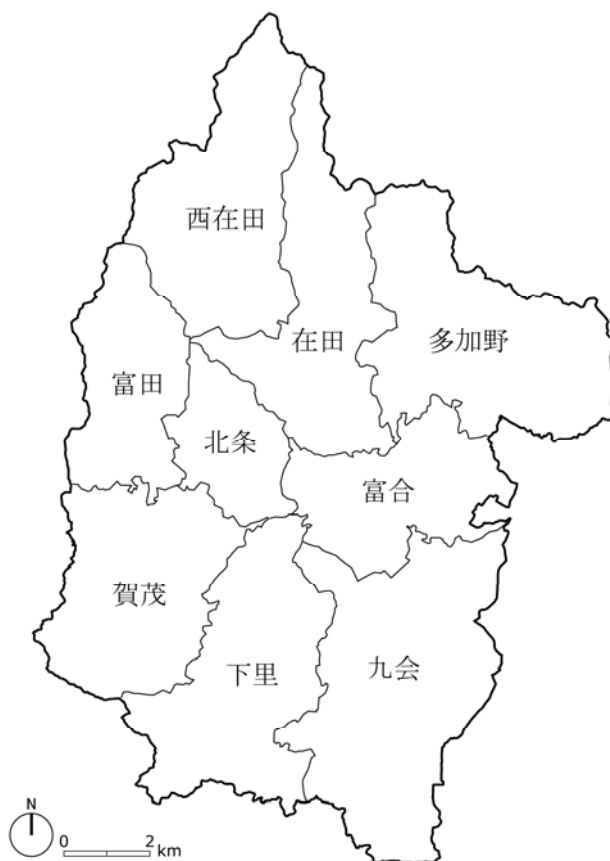


図1 地区区分

■ 歴史文化遺産一覧表の凡例

区分：「建造物」、「美術工芸品」、「有形民俗」、「無形民俗」、「遺跡」、「名勝地」、「動物」、「植物」、「地質鉱物」、「文化的景観」、「伝統的建造物群」の区分を設定する。

これらのうち、以下の項目については、詳細な区分を括弧書きで示す。

- ・建造物：「寺社」、「民家」、「石造物」、「その他」
- ・無形民俗：「祭礼」、「行事」、「芸能」、「信仰」、「伝承」
- ・遺跡：「集落遺跡」、「古墳」、「寺跡」、「窯跡」、「城跡」、「祭祀」、「古道」、「戦跡」
- ・名勝地：「庭園」、「山岳等」
- ・植物：「樹木」、「樹林」、「群落等」

指定等：次の略称を用いて示す。

- ・国指定…国宝：「国宝」、重要文化財：「国重文」、重要無形民俗文化財：「国無民」、史跡：「国史跡」
- ・国登録…有形文化財：「国登録」
- ・県指定…有形文化財：「県有文」、無形民俗文化財：「県無民」、史跡：「県史跡」、天然記念物：「県天記」
- ・県登録…有形文化財：「県登録」
- ・市指定…有形文化財：「市有形」、民俗文化財：「市民俗」、史跡：「市史跡」、名勝：「市名勝」、天然記念物：「市天記」

歴史文化ストーリー：①から⑨は、それぞれ次の歴史文化ストーリーに対応する。

関連文化財群	I 自然を活かし共に楽しむ	II 史実と伝承で磨きをかける	III 安寧を祈る心を伝える
歴史文化ストーリー	① 石の文化 ② 人々の営みが育む景観 ③ 豊かな自然の恵み	④ 大国播磨と風土記 ⑤ 道が育む文化 ⑥ 中近世の歴史の表舞台	⑦ 氏神の信仰と祭礼 ⑧ 高度な仏教文化 ⑨ 大戦の記憶と平和学習

北 条 地 区

北条町北条, 北条町小谷, 北条町栗田, 北条町横尾, 北条町古坂, 北条町東高室, 北条町西高室,
北条町東南, 北条町西南, 北条町黒駒

表5 北条地区の歴史文化遺産 (1 / 7)

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	住吉神社	北条町北条	建造物 (寺社)	明治以前は酒見大明神、酒見社などと呼ばれ、東に隣接する酒見寺と一体となって管理・運営されていた。嘉永2年(1849)及び嘉永5年(1852)築の本殿は、切妻造・妻入の住吉造で、古代に一带が摂津住吉社の神領であったことと関係があるとされる。神社本殿の中では巨大なもので、それが三棟並立していることも特徴である。拝殿は本殿に先立ち文化5年(1808)に、幣殿は大正期に建築されている。	県有文 ※本殿、拝殿他 市有文 ※幣殿、淡島神社		●		●					
2	酒見寺	北条町北条	建造物 (寺社)	天平17年(745)に行基が訪れ、酒見明神の神託により伽藍を建立したことに始まると伝える。境内には、山門や引声堂、地蔵堂、多宝塔、新観音堂、本堂、鐘楼などが並ぶ。多宝塔は、寛文2年(1662)に建てられ、塔内に大日如来を安置している。また、屋根の上重が桧皮葺、下重が瓦葺という珍しい様式で、全体に装飾文様を極彩色で描き、全国的にも美しい多宝塔として知られる。	国重文 ※多宝塔 県有文 ※鐘楼 市有文 ※楼門		●							
3	大信寺	北条町北条	建造物 (寺社)	南面して建つ弘化2年(1845)築の三間堂。入母屋造銅板葺とし、正面に一間向拝を付ける。側柱が方柱、内部が円柱。組物は出三斗で、中備に背の高い皿斗付出三斗を飾る。外陣及び内陣、脇陣からなる標準的な浄土宗本堂で、室境を簡略化するなど幕末らしい内部構成を見せる。	国登録 ※本堂		●							
4	西岸寺	北条町北条	建造物 (寺社)	後藤又兵衛の甥が僧となった寺。又兵衛の妹は神吉城主に嫁いだが、その子房太郎は落城の時5歳であった。長じて西岸寺の恵覚となる。西岸寺には又兵衛の槍などが残されている。							●			
5	陽松寺	北条町小谷	建造物 (寺社)	小谷城の麓に位置し、元文元年(1532)、城主赤松祐尚が嘉吉の乱で亡くなった家臣や一族の供養のため創建したと伝える。本堂の裏には池があり、戦の時には堰を切って、水を寺の前の田畑に流して防御に利用できるようにしており、戦乱の時代に建てられた寺として、砦の役割も担っていたとされる。							●			
6	高井家住宅	北条町横尾	建造物 (民家)	京・大坂への街道に北面して建つ嘉永3年(1851)築の町家。木造つし2階建、切妻造、棧瓦葺の塗屋造の平入で、東側を通り土間とし、床上部を整形四間取りとする。正面はつし2階に虫籠窓を付け、1階は出格子を付けるなど通り景観を構成する。	国登録					●				

表6 北条地区の歴史文化遺産（2／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
7	水田家住宅	北条町横尾	建造物 (民家)	京・大坂への街道に南面して建つ大正11年(1922)築の町家。木造2階建、入母屋造棧瓦葺で、下階では東側の土間を出入口とし、西側は座敷で前面に格子をはめる。上階は漆喰で塗り込めて、東西端に袖卯建を付け、格子付の窓を穿つ。旧街道の面影を伝える。	国登録					●				
8	五百羅漢	北条町北条	建造物 (石造物)	「北条の五百羅漢」の名で広く知られ、釈迦に追従した五百人の聖者を称して五百羅漢と言われる。地元では古くから「親が見たけりゃ北条の西の五百羅漢の堂へござれ」と謡われ、多くの人々に親しまれてきた。この五百羅漢は17世紀前半に酒見寺千住院隆弁や高瀬清右衛門が五百羅漢信仰・供養のために造立に深く関わり、地元高室の石工たちが工房で、中世以来の延石や端石などの柱状石材を利用した石塔婆の系譜をひく技術をもって製作したと考えられている。また、羅漢像に用いられている角柱状石材は、近世石材生産史ともかかわってくると考えられている。	県史跡	●							●	
9	出雲大社の道標	北条町北条	建造物 (石造物)	現在は出雲大社の敷地内に立つが、元は約100m東の交差点に立っていた。道路拡幅のため当地に移設された。「左 姫路 右 京・大坂云々」の文字が、見事な太く深いタッチで彫り込まれている。		●				●				
10	潮田又之丞姉母の墓	北条町北条	建造物 (石造物)	潮田又之丞は、大石内蔵助の親戚筋にあたり、討ち入りに参加した四十七士の一人である。又之丞は討ち入り前、家族を姉の嫁ぎ先であった北条の名家渡辺家に預けた。北条の菊ヶ谷墓地には母と姉の墓が残る。						●				
11	小谷石仏	北条町小谷	建造物 (石造物)	堂内に2基の石棺仏を安置する。右側は、家型石棺の蓋石内側に阿弥陀坐像と六体の菩薩像を薄肉彫し、康永4年(1345)の銘がある。下腹部が濡れたようになっているため、「夜ばりこき(寝小便平穩)地蔵」と呼ばれて地域の人々の信仰を集めている。	市有文	●							●	
12	小谷石造五輪塔	北条町小谷	建造物 (石造物)	小谷城の構居跡と伝えられる場所の石龕内にある。右側は、古い様式を持ち、左側は新しいようであるが、共に室町時代初期頃のものと考えられる。	市有文	●								

表7 北条地区の歴史文化遺産（3／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
13	横尾の道標	北条町横尾	建造物 (石造物)	横尾の街道の東端に病除地藏尊があり、その傍らに3基の石造道標が立つ。その一番うしろの道標は、享保13年(1728)に作られたもので、加西市に残る280余基の道標の中で最古のものである。		●				●				
14	別れの道標	北条町横尾	建造物 (石造物)	兵庫街道と高砂街道の分岐に立つ。「左 三木 右 高砂」の文字が刻まれている。		●				●				
15	鎮岩板碑	北条町古坂	建造物 (石造物)	市民会館東の公園に立つが、元は鎮岩町大日堂にあったため鎮岩板碑と呼ばれる。石棺側石と思われる板石に、阿弥陀三尊の種子を葉研彫りし、建治3年(1277)銘がある。	県有文	●							●	
16	北条鉄道	—	建造物 (その他)	加西市の田園地帯を走る鉄道で、「かさい田園鉄道」とも呼ばれる。全長13.6kmを個性ある8つの駅(加西市内には、うち7駅が位置している)で結んでいる。大正4年(1915)3月3日の播州鉄道北条支線(北条鉄道の前身)の開通後、度重なる廃線の危機を乗り越え、昭和60年(1985)4月、旧国鉄から業務を引き継ぎ、第3セクターとして生まれ変わった。年間約30万人を運び、加西市民の足として親しまれている。						●				
17	北条住吉神社の節句祭り	北条町北条	無形民俗 (祭礼)	住吉神社は北条町北条に鎮座し、酒見神・住吉三神・神功皇后を祭神とする。養老元年(717)、山酒人が神殿を造り、氏神として酒見大明神を祀ったとされる。『延喜式』神名帳の「坂合神社」に比定されるが、諸説ある。 北条節句祭りは、かつては旧暦3月3日が本宮であったが、平成元年(1989)から4月第1土曜(宵宮)、日曜(本宮)とした。旧北条町内を中心に東郷と西郷に分かれて神輿(各郷1基の計2基)を担ぎ、計14台の豪華な屋台を出す。神輿の還御の時、御旅所・本社で龍王舞が舞われ、本社では舞の後、鶏合せ神事が行われる。龍王舞の後に獅子が龍王に寄り付く仕種をする。鶏合せ神事は保安3年(1122)から執り行われてきたことが記録に残る。優雅さと勇壮さが織りなす華やかな春祭りとして有名で、播磨三大まつりの一つに数えられ、伝統を引き継いでいる。	県無民 ※龍王舞 市無民 ※鶏合せ							●		
18	酒見寺の引声会	北条町北条	無形民俗 (行事)	引声会は、天台宗の開祖最澄の高弟慈覚大師円仁が始めた仏教の修法である「常行三昧の阿弥陀念仏行法」(山の念仏)を伝									●	

表8 北条地区の歴史文化遺産（4／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
18	酒見寺の引声会	北条町北条	無形民俗 (行事)	える行事であり、近年まで修され、その回数は1,000回に及んだという。酒見寺には寛弘8年(1011)に比叡山から伝えられたとされ、中世には、一乗寺や普光寺などの多くの天台寺院で、常行三昧・山の念仏が修され、念仏信仰を育む基盤となった。 毎年9月中旬の1週間にわたって、酒見寺の常行堂(引声堂)で行われる。初日に常行堂本尊の阿弥陀如来像が開帳され、結願前夜には僧侶が須弥壇の周囲を回りながら、長く節をつけて阿弥陀経の読経を行う。この節をつけて唱えることを「引声(引声念仏・引声阿弥陀経)」と言う。									●	
19	五百羅漢千灯会	北条町北条	無形民俗 (行事)	「北条の五百羅漢」の名で広く知られ、釈迦に追従した五百人の聖者を称して五百羅漢と言われる。地元では古くから「親が見たけりゃ北条の西の五百羅漢の堂へござれ」と謡われ、多くの人々に親しまれてきた。 石仏の供養のため、本尊である薬師如来の縁日にあわせて8月8日の夕べより開かれる千灯会は、参詣者により灯された約1千ものろうそくのやさしい炎が幽玄の世界を醸し出す。									●	
20	高室芝居 ／播州歌舞伎	北条町東高室	無形民俗 (芸能)	北条町東高室は、播州歌舞伎発祥の地である。宝暦12年(1762)編さんの『播磨鑑』には、「加西郡 高室村 鶉野村 栗野新村 此所ニ歌舞伎役者有テ諸国へ出ル」とある。また、『郡誌』には、元禄の初め頃に大坂から歌舞伎役者が高室村に流れてきて、歌舞伎を教え、村内や近村で演じ始めたことが記されている。その後「高室役者」の名は全国に知れ渡り、東高室は「石屋三分に百姓一分 残る六分は皆役者」と歌われたほどである。最盛期を迎える19世紀中頃には、山陽・山陰・淡路・四国、そして北海道にまで巡業したという。また、その頃には、若手役者が修行に来るようになり、県下各地に芝居座ができて広く伝播していく。しかし、大正・昭和期になると新興演劇などが観客を獲得していき、さらに、戦争の影響も重なり、昭和12年(1937)に最後の座が幕を下ろすこととなる。昭和57年(1982)、東高室にある県立播磨農業高校に「播州歌舞伎クラブ」(現郷土伝統文化継承クラブ)が創設され、多可町中区の嵐獅山と最後の高室役						●				

表9 北条地区の歴史文化遺産（5／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
20	高室芝居 ／播州歌舞伎	北条町東高室	無形民俗 (芸能)	者の嵐源之助の指導のもとに、高室芝居（播州歌舞伎）の伝統文化を受け継いできた。								●		
21	上鴨里 下鴨里	—	無形民俗 (伝承)	品太天皇（応神天皇）の時代、つがいの鴨が巣をつくって卵を産んだところ。後に上と下の2つの里に分かれた。糠岡の地名説話にみられる大汝命（大国主）が下鴨里で靱を碓でついた所を「碓居谷」、箕を置いた所を「箕谷」、酒を供える祭壇の酒屋を作った所を「酒屋谷」と呼んだとするが、これらの場所は不明である。					●					
22	鴨坂 鴨谷	—	無形民俗 (伝承)	品太天皇が狩りをした時、カモに矢が当たって、そのまま山を越えて下に落ちた。越えた坂を「鴨坂」（鴨谷町）、落ちた所を「鴨谷」（鴨谷町）と呼ぶようになったという。					●					
23	修布里	—	無形民俗 (伝承)	水を汲もうとした女の人が井戸に吸い込まれてしまったため、修布というようになったという。その井戸が、吸谷町の「修布の井」とされ、現在の富田地区が修布里の推定地とされる。					●					
24	鹿咋山	北条町黒駒	無形民俗 (伝承)	品太天皇が狩りに行った時、ここで白いシカが自分の舌を噛みながら歩いているのに会ったという。今の北条町黒駒にある女鹿山にあたる。女鹿山には、22基からなる女鹿山古墳群（山頂の前方後円墳とされる女鹿山古墳、山中の21基の群集墳）が造営されて、地域有力者の墓域となっている。					●					
25	品遅部村 (ホムチベの井戸)	北条町黒駒	無形民俗 (伝承)	品遅部（ほむちべ）たちの祖先にあたる前玉が、品太天皇から賜った土地とされ、ホムチベの井戸（北条町黒駒）が残る。					●					
26	三重里	—	無形民俗 (伝承)	ある女の人がタケノコを食べたら、体が三つに折れ曲がって座り込んでしまったことから名づけられたという。今の北条町から下里川流域にあたる。					●					
27	小谷遺跡	北条町北条 北条町小谷	遺跡 (集落遺跡)	市中央西部の丘陵南麓に広がる扇状地に立地する。5世紀から7世紀の初期須恵器や土師器が出土した集落遺跡で、須恵器導入期の様相を知る重要な遺跡であると同時に、玉丘古墳群との関係が注目される遺跡である。平安時代後期から鎌倉時代の井戸など、中世の生活様式をうかがわせる生活用具も出土している。			●							
28	実盛塚古墳	北条町古坂	遺跡 (古墳)	クワンス塚古墳の南約 50m 地点、標高 69m の段丘上に立地する。発掘調査は行われていない。現況では東に田、西側に池があり、墳丘にも改変が及んで	国史跡 ※玉丘古墳群				●					

表 10 北条地区の歴史文化遺産（6／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
28	実盛塚古墳	北条町古坂	遺跡 (古墳)	いるが、比較的残りのよい南側斜面の状況から円墳であることがわかる。直径約 18m、高さ約 3m になる。墳頂の中心近くに高まりがあり、墳頂の平坦面は不明瞭である。墳頂部にも改変の手が及んでいる可能性が考えられる。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
29	マンジュウ古墳	北条町古坂	遺跡 (古墳)	墳丘長約 46m、後円部径約 39m、前方部幅約 26m の古墳時代中期の帆立貝式墳であるが、墳丘の大部分が削られ古墳の形をかるうじて残す程度である。南側のくびれ部には、造出し部が付き、墳丘は 2 段以上の盛土であったことが古写真から判明している。墳丘には埴輪が巡り、墳丘周囲には、幅 10m 前後の周濠と周庭帯が残り、周囲には方墳や円墳が存在していたことが知られる。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
30	笹塚古墳	北条町古坂	遺跡 (古墳)	前方部を東に向けた全長約 51m、墳丘径約 43m、前方部幅約 16m の古墳時代後期と考えられる帆立貝式墳である。削られた墳丘の頂上には、竪穴式石槨が露出し天井石等が落下している。墳丘裾には、方形の造出し部が設けられていたが、大半が削られている。墳丘周囲には、幅約 10m の周濠が巡り、周濠の埋土からは、円筒埴輪片に混じり人物等の形象埴輪が出土している。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
31	小谷城跡	北条町小谷	遺跡 (城跡)	北条町小谷の集落北側にそびえる標高 218m の山上にあり、室町時代に築造された小谷赤松氏の居城となった山城跡である。応永年間（1394～1427）、赤松満祐の義弟上原民部大輔祐政が築城したとされる。嘉吉元年（1441）の嘉吉の乱では、小谷城から赤松直操（赤松満祐実弟）も駆けつけて生野峠で戦ったが、破れて自害した。その後、天文年間（1532～1555）には宇野氏が居城したとされ、天文 11 年（1542）に尼子氏との戦いで落城したともいわれる。東西 150m に及ぶ尾根上に、曲輪・土塁・横堀・竪堀などの諸施設が設けられた典型的な中世山城であるが、羽柴秀吉による播磨平定の過程で、織豊勢力の支城として改修された可能性がある。享保年間（1716～1735）には「播州加西郡小谷村古城跡図」が描かれている。現在も良好な状態で残る中世城跡で、眼下に赤松氏が治めた北条の町並みを見渡すことができ、歴史的背景を感じさせる。						●				

表 11 北条地区の歴史文化遺産（7 / 7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
32	勅使塚	北条町北条	遺跡 (祭祀)	住吉神社の拝殿前庭に立つ直径約 10m の塚。平安時代末期、近衛天皇の勅により、同社で播磨六山の僧による雨乞いの祈祷が行われた。祈祷がその後も続けられ、この塚は参向した勅使が使用したと伝わる。現在は北条節句祭りの鶏合わせの時に使われている。					●					
33	姫路街道	—	遺跡 (古道)	北条から山下経由で姫路に向かう。						●				
34	丹波・宮津街道	—	遺跡 (古道)	北条から古坂・河内を経て丹波に向かう。						●				
35	山崎街道	—	遺跡 (古道)	北条から西畑を経て、神崎郡に向かう。但馬・作州道ともいう。辻川で生野街道（姫路から生野・和田山方面に北上する街道）と交差する。播但鉄道が開通する以前、辻川の人々にとっては、姫路に出るよりも北条に向かう方が近いと、この経路が日常的に利用されてきたと考えられる。この経路に沿って、中国自動車道が走っている。						●				
36	西京街道	—	遺跡 (古道)	北条から山枝を経て、加東郡に向かい、社・古市・亀岡（亀山）を経て、京都に向かう。						●				
37	兵庫街道	—	遺跡 (古道)	北条から東高室を経て、美嚢郡方面に向かう。						●				
38	高砂街道	—	遺跡 (古道)	北条から西高室・倉谷を経て志方方面に向かう。なおこの経路は市場（北条）で「兵庫街道」と分岐する。						●				
39	高室石	北条町東高室	文化的景観	北条町東高室の石切場が産地として知られる。現在は稼働していないため、石切場跡も草に覆われている。玉丘古墳群に近く、その造営とともに開発された石山として評価されるようになった。玉丘古墳の長持形石棺も高室石系の石材である。		●								
40	北条の宿	北条町北条 北条町栗田 北条町横尾	伝統的 建造物群	北条の宿は、1300 年前に建立された住吉神社、酒見寺の門前町として栄えてきた。戦国時代に小谷城主赤松氏が「古市場」を開いたといわれ、「田舎なれども北条は都、月に六斎（回）市が立つ」と謳われるほどに繁栄し、江戸時代には街道が集まる交通の要衝の宿場町として栄えた。 現在も、住吉神社や酒見寺の周辺の門前町、旧街道沿いには当時の繁栄をもとに多くの商家が贅を競って趣向を凝らした家屋やその面影（卯建、虫籠窓、鍔絵、出桁造り等）を随所に見ることができ、平成 24 年（2012）には「景観の形成等に関する条例」（兵庫県）に基づく、歴史的景観形成地区に指定された。						●				

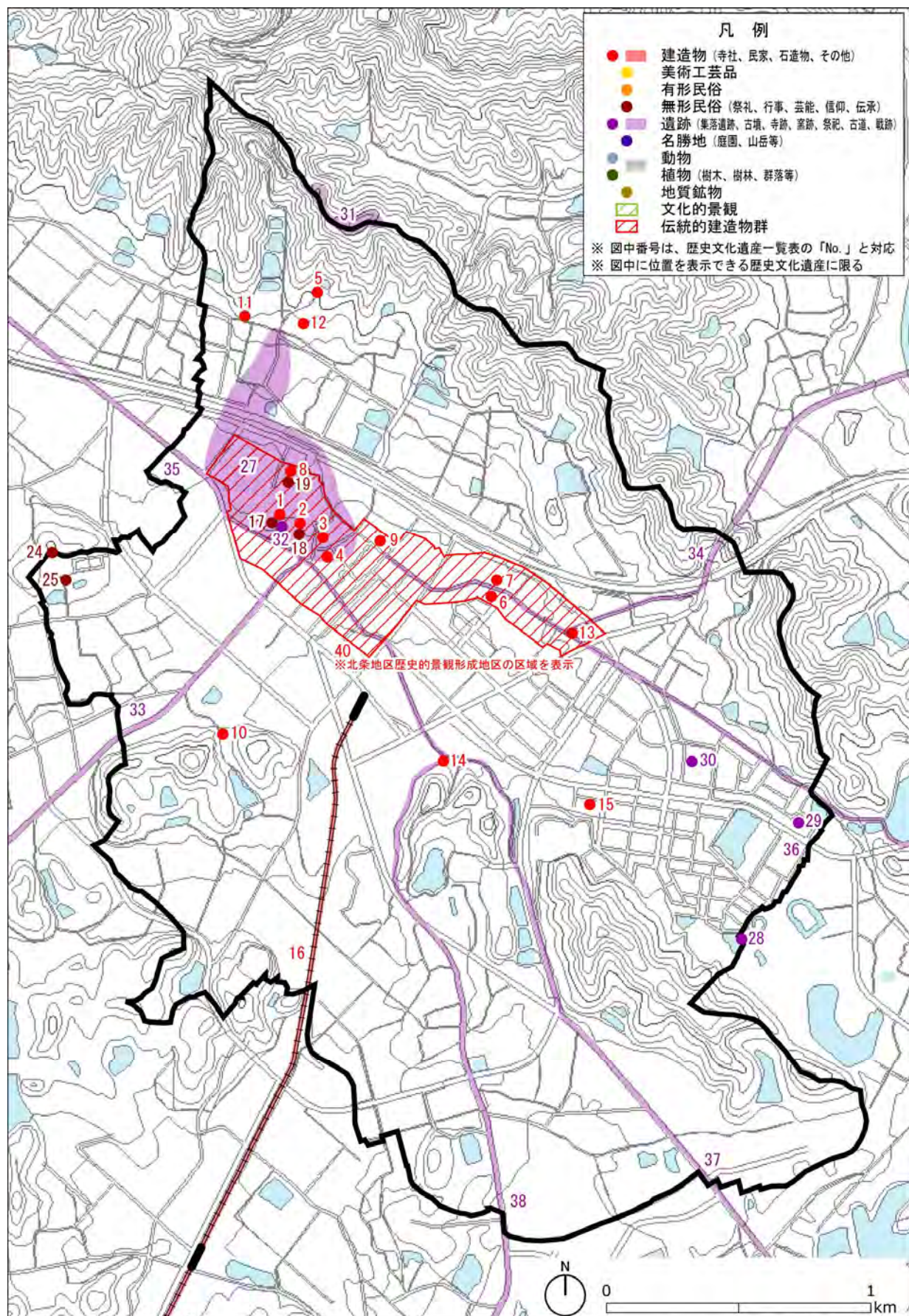


図2 北条地区の歴史文化遺産の分布

富 田 地 区

西上野町, 谷町, 西谷町, 畑町, 窪田町, 吸谷町, 市村町, 坂元町, 福居町, 谷口町, 吉野町

表 12 富田地区の歴史文化遺産 (1 / 3)

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	石造層塔	吸谷町	建造物 (石造物)	吸谷町観音堂の南側に位置する吸谷廃寺の礎石を配した庭園の西南隅に建つ。四隅に円い隅柱を立てる珍しい形式をもつ。弘安6年(1283)の銘があり、鎌倉時代末期の数少ない石造多層塔婆の一つとして貴重である。	県有文	●								
2	腰折地蔵	市村町	建造物 (石造物)	市村地蔵堂内にあり、像の首の所で上下に割れているため「腰折地蔵」と通称される。高室石製と思われる石棺蓋石の内側に地蔵菩薩立像を半肉彫りで表す。観応元年(1350)の銘がある。夜尿症に霊験があるという伝承がある。	市有文	●							●	
3	石造五重塔	坂元町	建造物 (石造物)	坂元町阿弥陀堂跡地に南面して建つ。古い様式を持つ供養塔婆で、鎌倉時代のもので、県下における数少ない石造多層塔婆の一つとして貴重である。	県有文	●								
4	長圓寺板碑	福居町	建造物 (石造物)	山形に切り整えられた板碑の上方に阿弥陀如来、右下に観音菩薩、左下に勢至菩薩の種子を表す。室町時代の製作と思われ、銘文から僧宥盛が逆修(自分の死後の極楽往生のために生前に行う行事)のため造立したことが知られる。	市有文	●							●	
5	畑高峯神社の秋祭り	畑町	無形民俗 (祭礼)	『延喜式』神名帳の「崇健神社」に比定されるが、諸説ある。『郡誌』によると、かつては神崎郡との境界山(神路山)の頂上に祀られていたが、天文年間(1532~1554)に現在の地に遷し、旧社殿跡には小祠を造ったとされ、以前高峰にあった神社であることから、高峯神社と社名を改めたという。氏子は畑、西谷、窪田である(以前は吸谷も氏子であった)。秋祭りは10月第2日曜日に行われ、屋台の巡行等が行われる。昭和46年(1971)から9年間、屋台の奉納を中止していたが、昭和55年(1980)から巡行を再開して現在に至る。								●		
6	谷口八幡神社の秋祭り	谷口町	無形民俗 (祭礼)	八幡神社は谷口町に鎮座し、応神天皇・比売神・神功皇后の3座に加え、福居町の7座と谷口町の3座を合祀して13座を祀る。境内には後社・稲荷神社・竹内社の3社を祀る。記録がなく、由緒等は不明であるが、社殿神扉裏面に寛文12年(1672)再建の旨が記されている。秋祭りは、10月第2日曜に開催される。古くは例祭と古例祭があり、例祭には奉納相撲、古例祭には神輿渡御があり、龍王舞が舞われた。現在、北の神									●	

表 13 富田地区の歴史文化遺産（2／3）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
6	谷口八幡神社 の秋祭り	谷口町	無形民俗 (祭礼)	輿は福居・坂元、南の神輿は谷口・吉野の各町が当番制で担ぐ。福居町からは屋台も出て、2基の神輿と屋台が御旅所まで渡御・巡行して宮入した後、龍王舞が舞われる。なお、坂元町にも屋台があり、秋祭りでは町内を巡る。								●		
7	修布里 修布の井	吸谷町	無形民俗 (伝承)	水を汲もうとした女の人が井戸に吸い込まれてしまったため、修布というようになったという。その井戸が、吸谷町の「修布の井」とされ、現在の富田地区が修布里の推定地とされる。					●					
8	岡田遺跡	谷町 西谷町	遺跡 (集落遺跡)	本市中央西部の丘陵南麓に広がる扇状地に立地する。縄文時代のサヌカイト製の石器や石製品が数多く出土し、サヌカイトを主要石材とした縄文時代前期中葉の石器製作遺跡であったとされる。また、玦状耳飾などの石製装飾品の出土は、サヌカイト流通の重要な役割を担った拠点的な遺跡であった可能性を示唆する。また、5世紀末頃の須恵器や土師器も出土し、集落が継続して営まれ、特に奈良時代には倉庫群や墨書土器が検出されていることから、官衙的性格を帯びた施設群であったことが推察されている。			●							
9	吸谷廃寺 (礎石群)	吸谷町	遺跡 (寺跡)	慈眼寺周辺がその旧地とされ、礎石が多く散在している。東向きの法隆寺式伽藍配置が想定されている。発掘調査では、金堂・講堂の基壇、地下式の塔心礎、掘立柱の建物群や幡幢を立てるための支柱と考えられる柱穴などが発見されている。出土瓦には、軒丸瓦2種類と軒平瓦4種類があり、いずれも白鳳時代に属する。	市有文 ※吸谷廃寺 礎石並びに 出土古瓦	●			●				●	
10	吸谷瓦窯跡群	吸谷町	遺跡 (窯跡)	吸谷廃寺の東南約300mの山麓に位置し、瓦谷と呼ばれる谷の奥に用水池を築造した時に発見された登り窯である。現在、窯の焚口部は池水に没しているが、池東岸の崖面に赤く焼けた壁体が見える。基数は定かではないが、複数基と推定される。吸谷廃寺の瓦を焼いたと考えられ、白鳳期の瓦窯跡として貴重である。	市史跡				●					
11	姫路街道	—	遺跡 (古道)	北条から山下経由で姫路に向かう。						●				
12	山崎街道	—	遺跡 (古道)	北条から西畑を経て、神崎郡に向かう。但馬・作州道ともいう。辻川で生野街道（姫路から生野・和田山方面に北上する街道）と交差する。播但鉄道が開通する以前、辻川の人々にとって						●				

表 14 富田地区の歴史文化遺産（3／3）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
12	山崎街道	—	遺跡 (古道)	ては、姫路に出るよりも北条に向かう方が近いため、この経路が日常的に利用されてきたと考えられる。この経路に沿って、中国自動車道が走っている。						●				
13	ゆるぎ岩	畑町	名勝地 (山岳等)	畑町イザナギ山の中腹にある3億年前の古生代に海底に蓄積した生物岩で、高さ4m、中央部の周囲は6.6mの巨岩である。「ゆすり岩」ともいわれ、神石とされてきた。その昔、法道仙人が「善人が押せば動き、悪人が押してもびくともしない。この岩を押して動かない時は自分に邪心があるから、罪悪を懺悔して正直慈善の人に立ち返りなさい」と人の心を試させたと言い伝えが残る。	市天記	●							●	
14	蛙岩	吸谷町	名勝地 (山岳等)	吸谷町の奥の八千種(福崎町)に抜ける峠道の中腹に蛙の形をした岩があり、「蛙岩」と呼ばれる。この蛙岩は一年に米1粒ずつ山を下って「修布の井」へ降りてくると言われており、井戸に辿りついた時には、吸谷は沼になって水底に沈んでしまうという言い伝えがある。		●								
15	ニンニクの栽培	—	文化的景観	加西には、自生して80年以上の歴史を持つ「ハリマ王ニンニク」がある。その歴史は戦前に遡り、東剣坂町の北本氏が役場の薦めで始めたと伝える。自家製で細々と栽培を続けたが、戦争の混乱のなか、竹やぶへと放棄された後、昭和30年代に入り、竹藪の中で20年以上も自生して生き残っていたものが再び発見されたものである。今の品種にない鮮烈な香りと味が受け、人気の特産品となっている。				●						

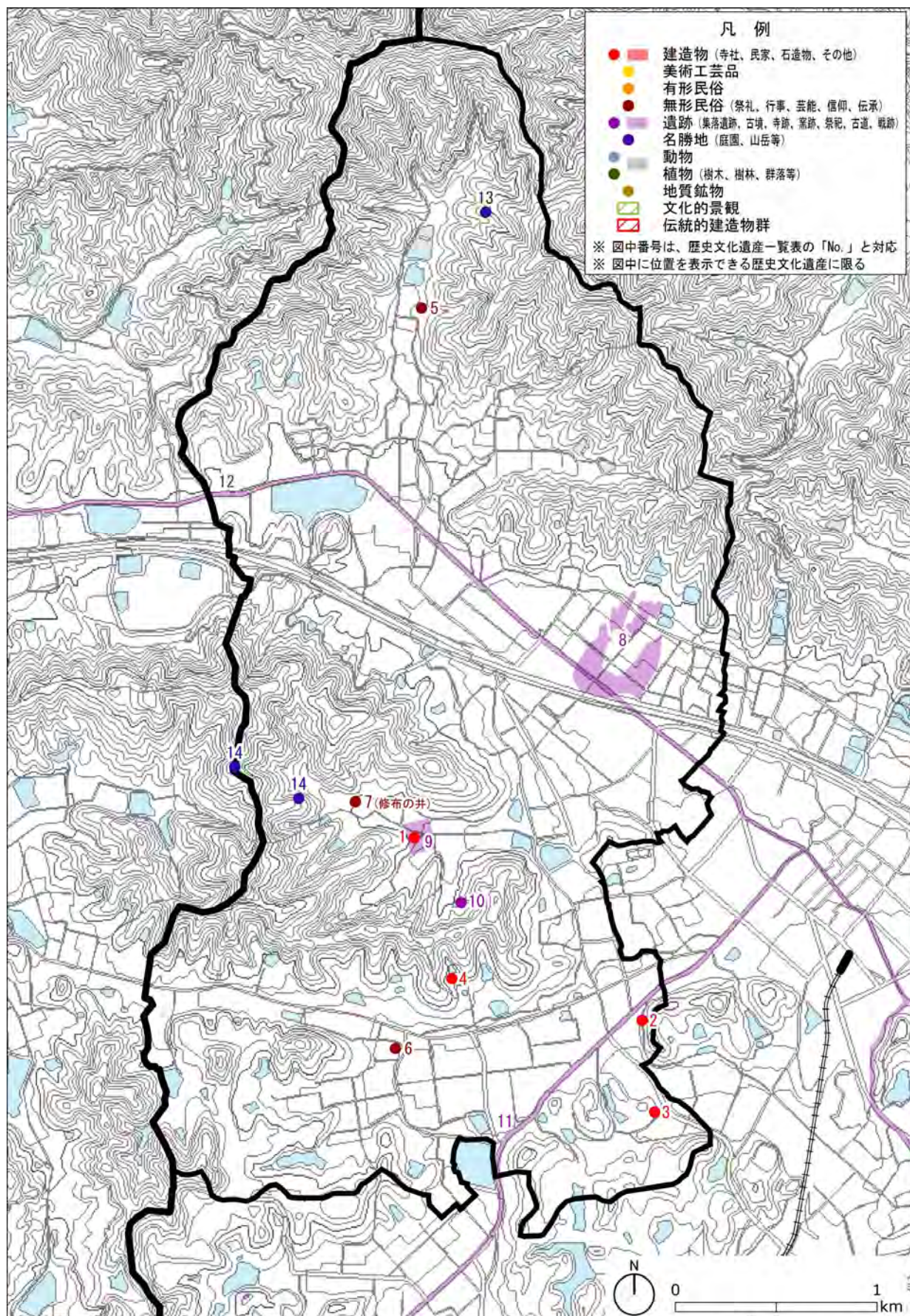


図3 富田地区の歴史文化遺産の分布

賀 茂 地 区

福住町，山下町，西横田町，東横田町，鎮岩町，岸呂町，東長町，西長町，東剣坂町，西剣坂町，中山町，大柳町

表 15 賀茂地区の歴史文化遺産（１／３）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	常行院石造七重塔	山下町	建造物 (石造物)	複数の切り石を組み合わせた基壇の上に立ち、宝徳 3 年（1451）の銘がある。基礎から宝珠まで当初のものが残り、姿形の美しい塔である。層塔の造立が激減する室町時代の数少ない例として重要である。	市有文	●								
2	小野寺十内親子の碑	東長町	建造物 (石造物)	江戸時代中期に、小野寺十内の子孫である吉田伴庵により、亡き家族とともに父十内と兄幸右衛門の名を刻んだ碑が建立された。碑の隣にある薬師堂には、十内の子孫により天保 10 年（1839）と明治 35 年（1902）に再建されたことを示す棟札が残る。							●			
3	古法華石仏 (石造浮彫如来 及両脇侍像)	西長町	建造物 (石造物)	白鳳時代（7 世紀後半）に造られた日本最古の石仏の一つで、細部に極めて優れた技が認められ、白鳳時代の仏教美術の代表作である。奈良国立博物館に収められていたが、地元の熱望によって、昭和 46 年（1971）に古法華の地に戻り、現在は収蔵庫で大切に保管されている。	国重文	●							●	
4	長石道標	西長町	建造物 (石造物)	石道標の宝庫と言われる当市が、古くから道標に使われてきた長石を利用し、平成 14 年（2002）に、現在の道標として復活させたものである。		●					●			
5	最後の石道標	西長町	建造物 (石造物)	長駅から西進した交差点にある。櫛型の小さな石の道標。上部には地藏坐像、下部には、「右長駅、左北条」の文字を刻んでいる。昭和 31 年（1956）1 月に造られており、享保 13 年（1728）から当市に 330 基余り設置された石道標の最後となるもの。さすがにこの頃となると石道標を頼りに旅をする人はいなくなったと考えられる。		●					●			
6	北条鉄道	—	建造物 (その他)	加西市の田園地帯を走る小さな鉄道で、「かさい田園鉄道」とも呼ばれる。全長 13.6km を個性ある 8 つの駅（加西市内には、うち 7 駅が位置している）で結んでいる。大正 4 年（1915）3 月 3 日の播州鉄道北条支線（北条鉄道の前身）の開通後、度重なる廃線の危機を乗り越え、昭和 60 年（1985）4 月、旧国鉄から業務を引き継ぎ、第 3 セクターとして生まれ変わった。年間約 30 万人を運び、加西市民の足として親しまれている。							●			
7	長駅	西長町	建造物 (その他)	大正 4 年（1915）3 月 3 日播州鉄道北条支線が開通すると同時に開業した。北面に幅 2 間の旅客用上屋を張出す桁行 5 間梁間 2 間半、切妻造、平入の木造平屋建の本屋と、延長 77 メー	国登録						●			

表 16 賀茂地区の歴史文化遺産（2 / 3）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
7	長駅	西長町	建造物 (その他)	トルの石積プラットホームからなる。本屋は駅務室奥の四畳半の休憩室、出札口、荷物扱口の造作など往時の姿をよく残す。長と言えば長石が有名であるが、採石が盛んだった頃には、切り出された石が貨物列車で運ばれて行ったといわれる。	国登録					●				
8	三重里	—	無形民俗 (伝承)	ある女の人がタケノコを食べたら、体が三つに折れ曲がって座り込んでしまったことから名づけられたという。今の北条町から下里川流域にあたる。					●					
9	古法華山寺	西長町	遺跡 (寺跡)	法華山一乗寺の前身であるという伝承をもち、白鳳時代の石仏である古法華石仏が納められていることで知られる。この古法華山寺の周辺から、奈良時代の須恵器や土師器が出土し、この石仏を納める堂宇の存在が想定されている。人里離れた場所に位置することから、古代における山林修行の場とも考えられている。					●				●	
10	山下城跡	山下町	遺跡 (城跡)	16世紀頃、戦国時代の武将で、羽柴秀吉による播磨平定で三木城に籠った浦上久松の居城といわれている。標高約 100mの独立丘陵上に立地する。主郭も広い面積をもつ規模の大きな城である。山の高所でないため、一部開墾などによる改変も想定されるが、通路や堀なども確認でき、良好な状態で残っている。城跡を後世に残そうと、地域住民のボランティアが木々を伐採して本丸跡に東屋を設置し、ふれあいの場として活用されている。							●			
11	姫路街道	—	遺跡 (古道)	北条から山下経由で姫路に向かう。						●				
12	高砂街道	—	遺跡 (古道)	北条から西高室・倉谷を経て志方方面に向かう。なおこの経路は市場（北条）で「兵庫街道」と分岐する。						●				
13	古法華自然公園 (播磨中部丘陵 県立自然公園)	東剣坂町	動物 植物 (樹林)	古法華自然公園は総面積 150ha、桜の名所として人気が高く、春は枝垂れ桜をはじめとしてミツバツツジの花、秋はキノコ狩りや山菜採りが楽しめる。桜の花が美しい 4 月には、古法華春祭りが開催され、国の重要文化財である浮彫三尊仏龕の管理を行っている石仏保存会を中心に盛大に開かれる。儀式は、本尊のご開帳から始まり、中でも数十名の巫女たちによる浦安の舞の美しさは圧巻である。その後、保存会や石彫体験者たちにより彫られた石仏の入魂の儀式などが行われる。また大柳ダムは、冬場にはカモやハ					●					

表 17 賀茂地区の歴史文化遺産（3／3）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
13	古法華自然公園	東剣坂町	動物 植物 (樹林)	クチョウなどの渡り鳥が多く飛来することで知られる。				●						
14	長石 (長石採石場)	西長町	文化的景観	長町の笠松山周辺域で採掘される凝灰岩で、柔らかく加工に適しているため、古墳時代から採掘され、古墳の石棺や石仏、五輪塔などの多くの石造品を生み出し、竜山石や高室石等とともに播磨地方の石造文化を開花させた。現在も主に建設資材用として採石が続き、白い断崖は、石の文化を象徴する景観をつくり出す。		●								

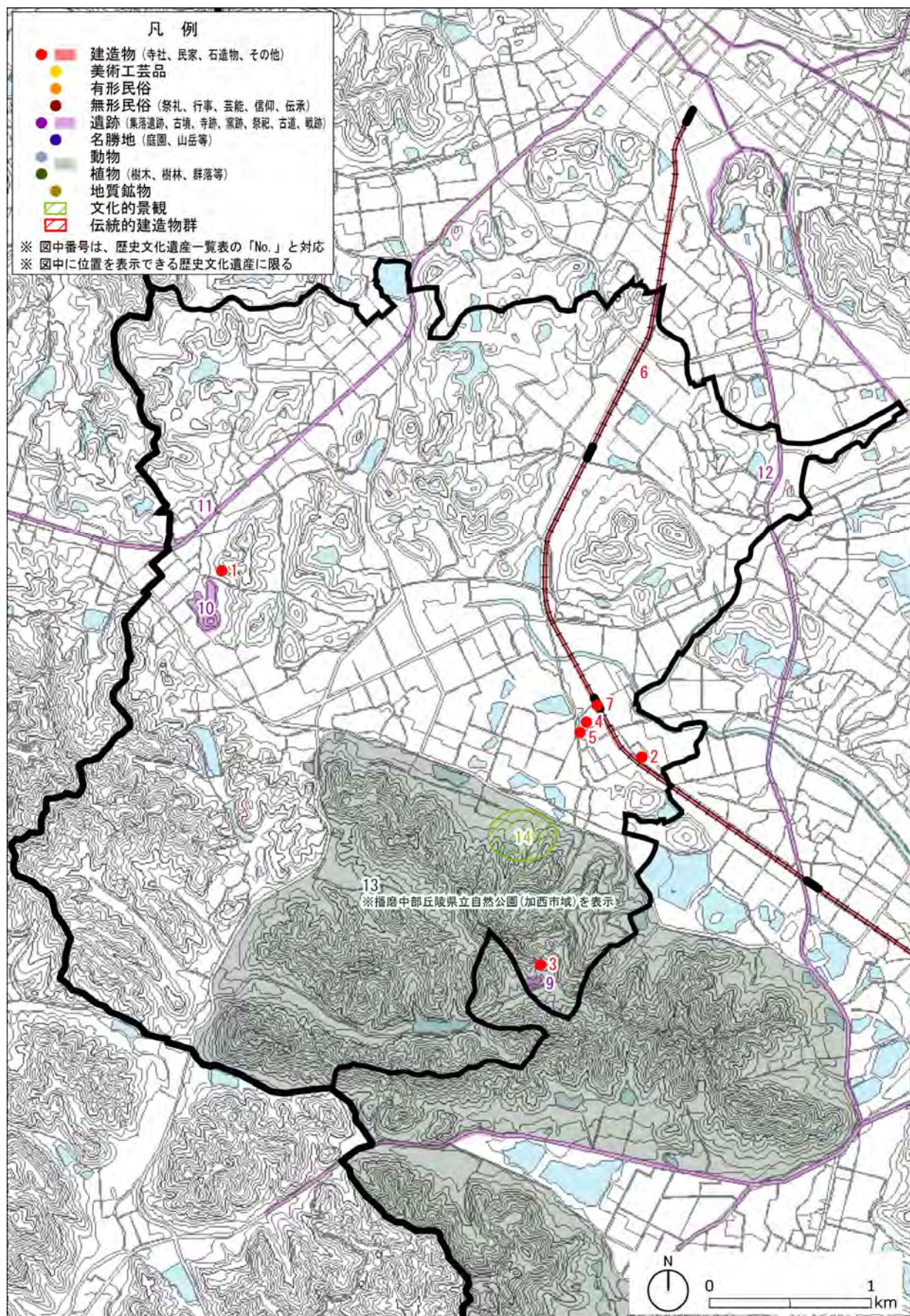


図4 賀茂地区の歴史文化遺産の分布

下 里 地 区

王子町、戸田井町、両月町、大村町、尾崎町、段下町、中西町、琵琶甲町、野条町、牛居町、野田町、東笠原町、西笠原町、三口町、坂本町、倉谷町、新生町

表 18 下里地区の歴史文化遺産（１／６）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	多聞寺	尾崎町	建造物 (寺社)	後藤又兵衛の菩提寺。大坂夏の陣で討死した又兵衛親子を弔うために、又兵衛の一周忌にあたる元和２年（1616）に又兵衛の子太良正法が寄付して上棟・開山したと伝えられる。本堂には、後藤又兵衛の位牌が祀られている。 また、多聞寺は、赤穂事件において、親子で討ち入りに加わり、大石内蔵助の参謀的な役割で活躍した小野寺十内と養子の幸右衛門の菩提寺でもある。子孫が檀家であるため、江戸時代から毎年 12 月 14 日に義士祭（吉祥講）が行われている。							●			
2	一乗寺	坂本町	建造物 (寺社)	法華山一乗寺は、インドの高僧法道仙人が白雉元年（650）に開いたと伝える。スギ、ヒノキの太木に覆われた小高い山の頂上に向けて石段が伸び、その先に国宝三重塔などの堂塔が立ち並ぶ。三重塔は平安時代末期、承安元年（1171）築とされ、日本を代表する古塔の一つである。古風で優美な三重塔や懸造（舞台造）の本堂など、境内の緑と諸堂伽藍が見事に調和し、御詠歌に「春は花 夏は橘 秋は菊 いつも妙なる法の華山」とある通り、春、秋の時節には桜、紅葉の名所としても知られる。	国宝 ※三重塔 国重文 ※本堂、妙見堂他 県有文 ※鐘楼他 県登録 ※開山堂		●		●				●	
3	稲岡家住宅	三口町	建造物 (民家)	主屋は、造り酒屋の事務所を兼ねた明治期築の建物で、東西棟、入母屋造、棧瓦葺のつし２階建である。つし２階に虫籠窓を開けた伝統的な外観とするが、床上部に１間幅の中廊下を配するなど近代的な要素を併せもつ。また、主屋の西に接して東西棟で建つ離れは、昭和前期築で、入母屋造、棧瓦葺の木造２階建で、背面東方の主屋との取り合い部には半切妻造、フランス瓦葺、外壁ドイツ壁で妻面をハーフティンバー風に見せる１室洋館を配する。	国登録		●							
4	大村石仏	大村町	建造物 (石造物)	組合せ石棺の側石を利用したと思われる２基の石棺仏。右側は、阿弥陀如来を半肉彫りし、康永元年（1342）の銘がある。左側は、勢至菩薩と考えられる。	市有文	●							●	
5	倉谷石仏	倉谷町	建造物 (石造物)	薬師堂内の厨子内に安置される。長石製と思われる家形石棺の蓋石の内側に、阿弥陀如来坐像を薄肉彫りしている。銘はないが、像の特徴等から、鎌倉時代中期頃の作と思われる。	市有文	●							●	

表 19 下里地区の歴史文化遺産（2／6）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
6	一乗寺五輪塔	坂本町	建造物 (石造物)	元は円光谷（一乗寺地藏院の西方の谷筋で、坊跡があるといわれる）の墓地にあり、大正年間に現在地へ移したとされる。元亨元年（1321）の銘があり、在銘の五輪塔では市内で最も古く、県内で唯一、国の重要文化財に指定されている代表的な石造五輪塔である。	国重文	●								
7	一乗寺石造宝塔	坂本町	建造物 (石造物)	奥の院の参道を右折した小径沿いに2基並んで立つ。向かって左側は花崗岩製で、塔身の四方に扉形を刻むなど、全体に装飾的技巧が感じられる。右側は凝灰岩製で、簡素で軒反りや相輪の形式にも若干の変化がみられる。建立年代は不明であるが、鎌倉時代頃と考えられ、右側の方が若干早く建立されたと思われる。	県有文	●								
8	一乗寺石造笠塔婆	坂本町	建造物 (石造物)	金輪の庭の中央南寄りに南面して建つ。石英粗面岩製で、正和5年（1316）の銘がある。笠は下端に薄く平板上の垂木型をくり出し、頂部に蓮弁を刻んだ請花・宝珠をいただく。保存は完好で、蓮弁や軒反りの性質などよく時代の特徴を表している。	県有文	●								
9	一乗寺石造九重塔	坂本町	建造物 (石造物)	奥の院、通称「賽の河原」に立つ。相輪部の大部分を欠失しているが、高さ 313cm の大型の層塔である。南北朝時代中期頃の建立と考えられる。	市有文	●								
10	石造五輪塔	坂本町	建造物 (石造物)	法華山に登る県道の傍の墓地に建つ。各部とも完存し、刻銘はないが、一乗寺五輪塔と手法が類似し、鎌倉時代から南北朝頃の造立と推定される。	市有文	●								
11	花樵句碑	坂本町	建造物 (石造物)	一乗寺山門前に位置する。文化 11 年（1814）に中西五一（安積尚平の弟で、大坂の中西家に養子）が、安積花樵翁の 13 回忌に発案・建立した句碑で、高さ 82cm、幅 46cm（石笠・台石含まず）である。 碑表：我影よ われにものいへ 秋の暮 花樵翁						●				
12	北条鉄道	—	建造物 (その他)	加西市の田園地帯を走る鉄道で、「かさい田園鉄道」とも呼ばれる。全長 13.6km を個性ある 8 つの駅（加西市内には、うち 7 駅が位置している）で結んでいる。大正 4 年（1915）3 月 3 日の播州鉄道北条支線（北条鉄道の前身）の開通後、度重なる廢線の危機を乗り越え、昭和 60 年（1985）4 月、旧国鉄から業務を引き継ぎ、第 3 セクターとして生まれ変わった。年間約 30 万人を運び、加西市民の足として親しまれている。						●				

表 20 下里地区の歴史文化遺産（3／6）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
13	播磨下里駅	王子町	建造物 (その他)	播州鉄道北条支線の開通から遅れること 2 年、大正 6 年（1916）8 月に設置された。南面に幅 1 間半の旅客用上屋を張出す桁行 6 間梁間 2 間、妻入とする木造平屋建の本屋と、延長 53 メートルの石積プラットホームからなる。本屋はコンパクトな構成で、軽便鉄道法に基づき建設された停車場本屋建築の一例である。設置当時の駅名は「播鉄王子駅」で、唯一駅名が変更された駅である。今でも、お年寄りの中には、「王子駅」と呼ばれる方もいる。	国登録					●				
14	法華口駅	東笠原町	建造物 (その他)	大正 4 年（1915）に建てられた歴史ある木造駅舎である。本屋は、桁行 6 間梁間 2 間半、木造平屋建、切妻造、平入で、西妻面に付属屋、北面に旅客用上屋を付ける。延長 67m の石積プラットホームと一体的に、歴史的な鉄道景観に寄与している。また、本屋の東側に西面して建つ便所も、本屋と一連で建設された大正初期の鉄道建築物で、1m 四方の部屋を一行に 4 室連ねた木造平屋建、棧瓦葺の建物。屋根を招造とし、西面は腕木で桁を受け、東壁面には上部に連続窓を設ける。法華口駅は、一乗寺の玄関口であり、鶉野飛行場跡の最寄り駅でもあるため、多くの観光客に利用されている。	国登録					●				
15	富久錦	三口町	建造物 (その他)	天保 10 年（1839）創業。明治初期には酒造業だけでなく、味噌・焼酎も醸造していた。昭和 39 年（1964）まで備中杜氏が蔵人とともに来ていたが、その後丹波杜氏になった。近年、酒造りを若手中心に組み替え、地元加西産の酒米を中心に、その酒米に合った純米酒に挑戦し、技術を磨いている。				●						
16	王子神社の春祭り	王子町	無形民俗 (祭礼)	王子神社は王子町に鎮座し、中央に天照皇大神、右に素戔鳴命、左に火産霊神を祀り、境内社に祇園社がある。由緒等は不明であるが、『郡誌』によると、創祀以来 1000 年以上を経るとされる。社殿は後水尾天皇の元和 5 年（1619）に改築したとされる。かつては若一王子神社と称したが、明治元年（1868）に王子神社と改称した。 春祭りは 4 月第 3 土曜（宵宮）・日曜（本宮）に開催され、獅子舞が舞われる。かつては宵宮の晩、本宮、本宮の晩の 3 回舞ったが、昭和 50 年（1975）	市民俗 ※獅子舞							●		

表 21 下里地区の歴史文化遺産（4／6）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
16	王子神社の春祭り	王子町	無形民俗 (祭礼)	頃から本宮の晩には舞わなくなり、現在は2回となる。歌舞、剣舞、四方舞など 11 演目が伝わる。	市民俗 ※獅子舞							●		
17	西国三十三所巡礼 (一乗寺)	—	無形民俗 (信仰)	観世音菩薩を安置した三十三カ所の札所と呼ばれる寺院を巡る巡礼である。和歌山県南部の那智山青岸渡寺から始まり、近畿地方を一巡して岐阜県西部の谷汲山華嚴寺で終わる。兵庫県内の札所は、24 番中山寺（宝塚市）、25 番清水寺（加東市）、26 番一乗寺（加西市）、27 番円教寺（姫路市）がある。多くの巡礼者は、24 番中山寺の次に西宮に出て海岸沿いに進み、27 番円教寺へと向かい、26 番一乗寺、25 番清水寺と巡り、福知山経由で 28 番成相寺（宮津市）を目指したことが、巡礼者の記録から知られる。また、市内には、一乗寺・清水寺などの霊場を指す巡礼者のための道標も多数残る。								●		
18	檜原里	—	無形民俗 (伝承)	ナラが生えていたため「檜原」と呼んだとあり、かつては地名になるほどの大きな森林があったことが想起される。しかし、現在はナラに関連する地名は残っておらず、旧地形から考えると、江戸時代に開拓された鶴野台地に檜原の里の中でも最も大きな林があったとも考えられる。					●					
19	善坊池遺跡	両月町	遺跡 (集落遺跡)	丘陵裾部に立地し、現在はため池となっている。旧石器時代のサヌカイト製の石器が採集され、縄文時代でも土器は確認されずに多量の石鏃をはじめ、石錐や石匙、サヌカイト原石などが採集されており、縄文時代早期から前期に主体がある遺跡とみられる。			●							
20	後藤山古墳	倉谷町	遺跡 (古墳)	7 世紀後半の築造とされる播磨地域の終末期古墳の代表例である。1 辺 20m の方墳で、玄室の長さ 4.1m、幅 2.8m という大きな石室をもつことは、石室規模が縮小する時期にあって、この古墳の特殊性を物語る。また、墳丘の前面をひな壇構成とする点や玄室幅の広さ、石室石材の加工技術の等に、他地域とりわけ畿内の影響が示唆される古墳である。	県史跡				●					
21	野条廃寺	野条町	遺跡 (寺跡)	現存する正方形の遺溝（1 辺約 10m、高さ約 50cm）は、平安時代初期に建てられた塔の基壇跡とされ、その頃に創建された寺院である可能性が高い。出土瓦からは、平安京や播磨国分	市史跡				●				●	

表 22 下里地区の歴史文化遺産（5／6）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
21	野条廃寺	野条町	遺跡 (寺跡)	寺との関係がうかがえ、当時、重要な位置を占めた寺院と考えられる。	市史跡				●				●	
22	善坊山城跡	戸田井町 三口町	遺跡 (城跡)	善坊山頂にある山城跡である。室町時代に赤松氏が築いた居城で、嘉吉元年（1441）に起きた嘉吉の乱で落城したとされ、落城当時の城主は赤松則繁と伝えられている。合戦は凄まじく、明治初期まで白骨体が木の葉の下に眠っていたといわれ、現在も善坊山を見渡せる鶉野の一角に戦死者を祀る「塚まち」がひっそりとたたずむ。善坊山頂の一の曲輪を中心に、東、西、北へ曲輪跡と思われる段平地が伸びており、わずかに石垣や堀切などの遺構を見ることができ、往時の山城の姿を想像できる。							●			
23	姫路道	—	遺跡 (古道)	加東郡から坂本を通り、姫路に向かう。この経路の大部分は、播磨清水寺から法華山一乗寺を経由して書写山円教寺に向かう、西国三十三カ所を巡る巡礼路（巡礼道）として利用されてきており、寺社参詣の道としての機能を有していた。西国巡礼は、近世半ば以降、年間約1万～3万人もの巡礼者があったとされ、未開地であった青野ヶ原でも宿屋が営業していた記録があり、多くの巡礼者により沿道の宿場等が発展した。またこの経路は京都方面に向かうと西京街道と合流して「京・大坂道」と注記がある。					●					
24	兵庫街道	—	遺跡 (古道)	北条から東高室を経て、美囊郡方面に向かう。						●				
25	高砂街道	—	遺跡 (古道)	北条から西高室・倉谷を経て志方方面に向かう。なおこの経路は市場（北条）で「兵庫街道」と分岐する。						●				
26	姫路海軍航空隊基地	東笠原町	遺跡 (戦跡)	昭和17年（1942）6月のミッドウェー作戦の失敗により、日本海軍は戦場での制空権の重要性を認識し、同年秋、パイロットを急遽養成するため、基地航空兵力の増隊を決定した。昭和18年（1943）10月、鶉野に姫路海軍航空隊を開隊。航空隊には、17歳から25歳までの若者が全国から約320名集められ、ここで30時間の飛行訓練を受けた後、各航空隊へと散っていった。昭和20年（1945）には、練習生による神風特攻隊「白鷺隊」が編成され、終戦までに63名の尊い命が失われた。終戦後、約250万㎡に広がった基地跡では、食糧増産のため									●	

表 23 下里地区の歴史文化遺産（6／6）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
26	姫路海軍航空隊基地	東笠原町	遺跡 (戦跡)	や引揚者などの受入先として、開拓事業が行われたり、アメリカ軍の接収後、各省庁へ払い下げられ、県立兵庫農科大学（現神戸大学大学院農業研究科）の付属農場が建設されるなど、かつての基地施設を解体しながらさまざまな利用が進められてきた。しかし、一部の滑走路や頑強なコンクリート構造物はそのまま残り、今でも数多くの戦跡が所々に残されている。										●
27	一乗寺の照葉樹林	坂本町	植物 (樹林)	一乗寺本堂東側の谷の反対側斜面には、比較的自然植生に近いコジイ優占林が成立しており、「日本の重要な植物群落」(環境庁、1980)にも特定されている。県立自然公園、鳥獣保護区にも指定されている。				●						
28	古法華自然公園 (播磨中部丘陵 県立自然公園)	両月町	動物 植物 (樹林)	古法華自然公園は総面積150ha、桜の名所として人気が高く、春は枝垂れ桜をはじめとしてミツバツツジの花、秋はキノコ狩りや山菜採りが楽しめる。桜の花が美しい4月には、古法華春祭りが開催され、国の重要文化財である古法華石仏の管理を行っている石仏保存会を中心に盛大に開かれる。儀式は、古法華寺の本尊ご開帳から始まり、中でも数十名の巫女たちによる浦安の舞の美しさは圧巻である。その後、保存会や石彫体験者たちにより彫られた石仏の入魂の儀式などが行われる。また大柳ダムは、冬場にはカモやハクチョウなどの渡り鳥が多く飛来すること知られる。				●						
29	皿池	戸田井町	文化的景観	水神が祀られている弁天島が浮かび、西洋風の全長約70mの眼鏡橋が架けられている。南岸にはジオトープ、湿地観察デッキ、東屋、藤棚、噴水などが整備され、憩いの場となる。弁天島の東屋からは、広大な皿池越しに広がる田園風景を眺められる。グリーンパークトライアスロンのスイム会場にもなっている。				●						

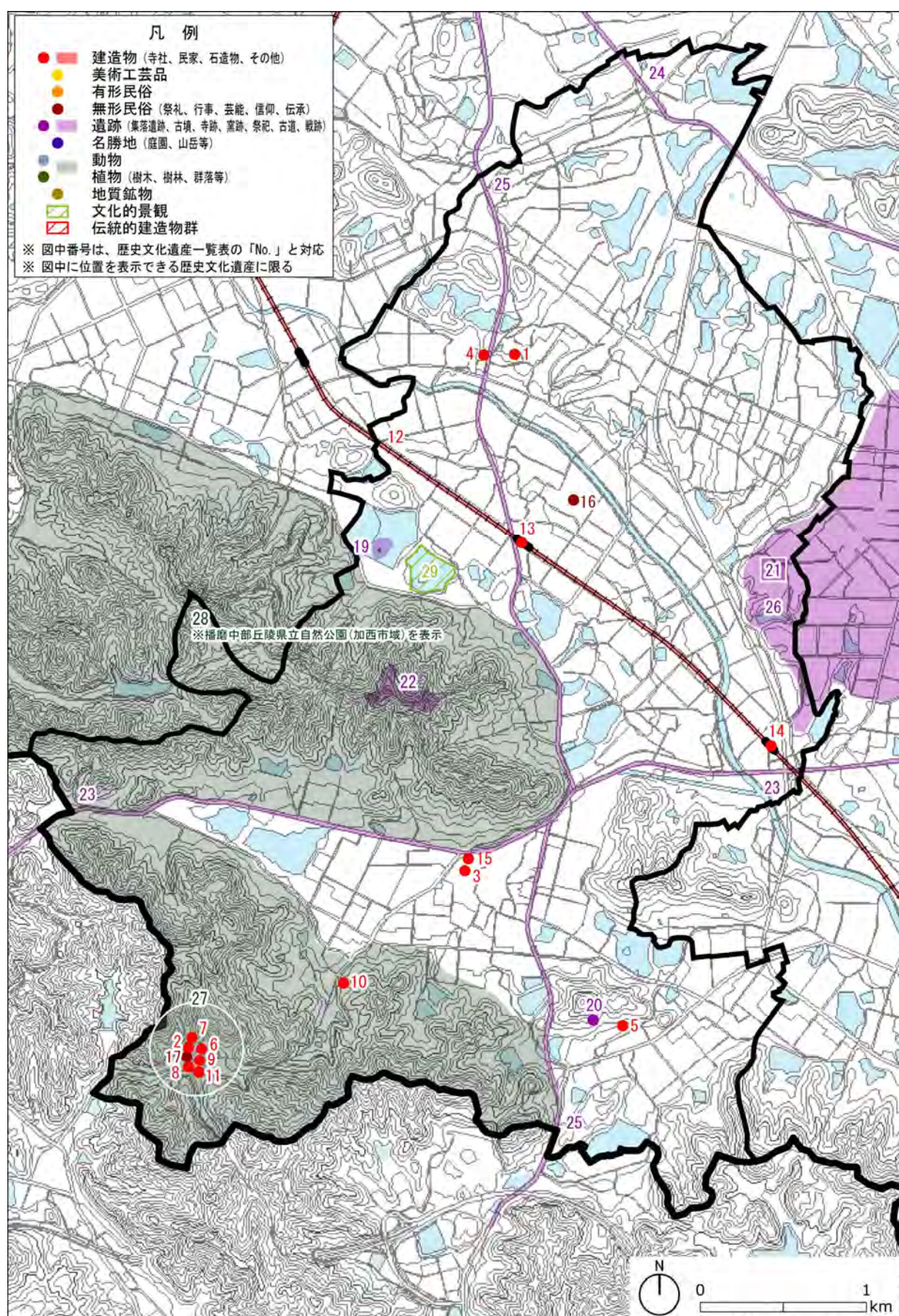


図5 下里地区の歴史文化遺産の分布

九 会 地 区

中野町, 田原町, 網引町, 栄町, 桑原田町, 繁昌町, 上宮木町, 下宮木町, 鶉野町

表 24 九会地区の歴史文化遺産 (1 / 7)

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	清慶寺 南帝塚	中野町	建造物 (寺社) (石造物)	長禄元年(1457)、嘉吉の乱で滅亡した赤松氏の遺臣が長禄の変を起こす。後南朝の行宮を襲い、二人の皇子を討って、神璽を持ち去り、南北朝統一後も続いた後南朝の反乱に終止符を打つこととなる事件である。清慶寺境内の南帝塚は、この変で討たれた後南朝の皇子の首を葬ったものと伝わる。また、清慶寺のある中野町は旧称を中村といい、金釣瓶城(小野市)の城主中村氏の館があったといわれ、清慶寺は長禄の変に参加した中村氏家臣の小谷与次の屋敷地であったともいわれる。							●			
2	周遍寺	網引町	建造物 (寺社)	建武2年(1335)、足利尊氏が建武政権から離反すると、建武政権下で不遇であった赤松氏もこれに応じ、播磨国守護であった新田義貞と交戦状態に入る。翌年、九州に敗走していた足利兄弟が勢力を回復して東上し、湊川合戦で新田・楠木軍を破って京を制圧、室町幕府を開くこととなる。そして、加西では赤松氏が実質的な播磨守護となって力をつけていく。この時、九州から京都を目指した足利軍は、兄尊氏が海路を、弟直義が陸路を進んだが、陸路の軍勢の一部であった今川頼貞が周遍寺に陣をとっている。なお、周遍寺は、その後、天正6年(1578)羽柴秀吉軍の中国攻めの際、兵火にかかり伽藍を焼失し、長らく荒廃していたが、天和2年(1682)に地元の里長らが中心になって伽藍を再興した。							●			
3	清慶寺板碑	中野町	建造物 (石造物)	厚さ15cmという極めて薄い家形石棺の内側に、阿弥陀三尊種子を葉研彫りする。正和3年(1314)2月29日の銘がある貴重な板碑である。	県有文	●							●	
4	石造宝篋印塔 (清慶寺)	中野町	建造物 (石造物)	ほぼ完全な形で残る宝篋印塔。塔身四面に四仏を肉厚に浮き彫りし、類例が少ない。嘉暦2年(1327)11月7日の銘があり、鎌倉末期の石造物を代表する逸品である。	県有文	●								
5	乎疑原神社石造 五尊像	繁昌町	建造物 (石造物)	舟形状の輪郭をなす凝灰岩の中央に如来坐像を半肉彫りする。中尊の左右に2軀ずつ計4軀の脇侍の菩薩立像を置く。5尊の面部で上下に割れている。白鳳時代の造立と考えられ、わが国最古の石仏の一つである。普光寺川から発見されたと伝えられ、繁昌廃寺に関係する遺品とする説もある。(奈良国立博物館へ寄託)	市有文	●							●	

表 25 九会地区の歴史文化遺産（2／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
6	乎疑原神社鳥居	繁昌町	建造物 (石造物)	乎疑原神社が鎮座する丘の登口にある。形態は明神鳥居で足元間隔は芯々345cm、高さは地面から笠木上端まで 400cm、柱は直径 33cm の円柱で内転びは小さい。造立年代は永正 8 年（1511）であるが、島木・笠木・貫は宝暦 6 年（1756）に取り替えられたことが銘文に記されている。	市有文	●								
7	上宮木石仏	上宮木町	建造物 (石造物)	高室石製と思われる石棺底石の上面に、阿弥陀如来坐像を薄肉彫りする。像の両脇に石棺側石をはめ込む溝が彫られている。制作は鎌倉時代までさかのぼる可能性がある。	市有文	●							●	
8	網引町道標	網引町	建造物 (石造物)	八幡神社南の旧道を東に抜けた辻に 3 基の道標がある。手前の 1 基には、「右きしの みき左あお じょうど寺」とあり、上段に仏を陽刻し、造立した 17 人の名と文化 14 年（1817）の銘を刻んでいる。他の 2 基は、屋根の下で、道標と判らないくらい幾重にもよだれ掛けが巻かれている。		●				●				
9	北条鉄道	—	建造物 (その他)	加西市の田園地帯を走る小さな鉄道で、「小さい田園鉄道」とも呼ばれる。全長 13.6km を個性ある 8 つの駅（加西市内には、うち 7 駅が位置している）で結んでいる。大正 4 年（1915）3 月 3 日の播州鉄道北条支線（北条鉄道の前身）の開通後、度重なる廃線の危機を乗り越え、昭和 60 年（1985）4 月、旧国鉄から業務を引き継ぎ、第 3 セクターとして生まれ変わった。年間約 30 万人を運び、加西市民の足として親しまれている。						●				
10	三宅酒造	中野町	建造物 (その他)	寛政 3 年（1791）創業。主要銘柄の「菊日本」は年間約 6 万本を製造する。酒蔵の中は、江戸時代からの面影をそのままに黒光りする太い梁や柱、滑車などが置かれ、歴史が醸す銘酒の重みを感じさせる。				●						
11	網引町八幡神社の秋祭り	網引町	無形民俗 (祭礼)	八幡神社は網引町に鎮座し、祭神は応神天皇（八幡神）・大歳神（大正 3 年（1914）合祀）、境内には神武天皇社・八坂社・愛宕社がある。勧請は永正 2 年（1505）といわれ、由緒から飾東郡松原村（姫路市白浜町）鎮座の神（現松原八幡神社）を分霊したと思われる。 10 月上旬に秋祭りが開催され、3 年に 1 度、奉納獅子舞が舞われる。『播磨小野史談』第五号によると、明治 20 年（1887）の秋祭りで最初に獅子	市民俗 ※獅子舞 能舞台							●		

表 26 九会地区の歴史文化遺産（3／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
11	網引町八幡神社の秋祭り	網引町	無形民俗 (祭礼)	舞が奉納されたとしており、元々は小野市西脇町の若一神社に奉納されていた獅子舞を、網引町の青年達を中心に習い覚えたものとされる。昭和 49 年（1974）に保存会が結成され、今も伝統の音色や舞を継承している。13 演目が伝承され、中でも「谷渡り」は 6 m の梯子を山形に組み、その段上での舞いであり大変迫力がある。また、獅子舞が舞われる能舞台は、貞享元年（1684）建立で、柱や梁は当時のまま保存されている。	市民俗 ※獅子舞 能舞台							●		
12	乎疑原神社の春祭り	繁昌町	無形民俗 (祭礼)	乎疑原神社は繁昌町字天神に鎮座する。『延喜式』神名帳の「乎疑原神社」に比定されるが、豊倉町の乎疑原神社を比定する説もある。社伝では、醍醐天皇（897～930）の時代に、菅原道真を天満大自在大神として勧請したと伝える。天文年間（1532～1555）に火災によって焼失し、現在の神殿は江戸時代中期頃、幣殿は明治 13 年（1880）、拝殿と神具殿は明治 24 年（1891）の建築である。中央に大国主命・少彦名神・大物主神・天照大神・素戔鳴尊、左側には底筒之男神・中筒之男神・表筒之男神、右側には菅原道真公・宗像姫三柱神を祀り、農業神を多く祀る。 菅原道真公の命日 3 月 25 日には、例大祭（天神祭り）が開かれる。豊穰祈願の後、浦安の舞や剣舞・扇舞・太鼓の奉納がされ、境内では子供樽御輿が神賑をする。								●		
13	檜原里	—	無形民俗 (伝承)	ナラが生えていたため「檜原」と呼んだとあり、かつては地名になるほどの大きな森林があったことが想起される。しかし、現在はナラに関連する地名は残っておらず、旧地形から考えると、江戸時代に開拓された鶉野台地に檜原の里の中でも最も大きな林があったとも考えられる。					●					
14	糠岡 (糠塚山)	網引町	無形民俗 (伝承)	大汝命が下鴨里で粳をついた時、粳殻が飛んできたことから名づけられた。現在の網引町の糠塚山にあたる。					●					
15	川合里	—	無形民俗 (伝承)	乎疑原神社の梵鐘に、「播州賀西郡西河合郷」とあり、小野市の河合地区からこのあたりまでが川合里と呼ばれたと考えられる。					●					

表 27 九会地区の歴史文化遺産（4／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
16	堀山遺跡	網引町	遺跡 (集落遺跡)	万願寺川右岸の段丘に立地する。集石墓とみられる土坑が検出され、近畿地方の縄文時代中期の墓制を明らかにする上で重要な遺跡である。また、弥生時代晩期の方形周溝墓も検出され、古墳時代への画期となる墓制を考える上でも重要な遺跡である。			●							
17	上灰田遺跡	網引町	遺跡 (集落遺跡)	本市南部の万願寺川東岸の低位・中位段丘上に立地する。土坑から弥生土器、石包丁が出土した弥生時代中期の集落遺跡であり、南方に隣接する後期の針田遺跡とともに、万願寺川下流域の拠点集落遺跡のひとつといえる。			●							
18	長塚遺跡	上宮木町	遺跡 (集落遺跡)	本市中央東部の万願寺川西岸の段丘上に立地する。弥生時代中期から後期頃の 50 棟以上の多様な形態の竪穴住居址をはじめ、墓、土坑、溝等が多数検出され、付近の殿垣内遺跡や土井ノ内遺跡とともに、万願寺川中流域の拠点集落とされる。また、その後の 7 世紀前半の方形竪穴住居址や須恵器、土師器も出土し、12 世紀を中心とした遺物も確認されている。特に、室町時代末から戦国時代頃に石材加工を主とした工房跡が確認され、中世末期の石材産業の実態を解明する上で注目される遺跡である。			●							
19	繁昌廃寺	繁昌町	遺跡 (寺跡)	普光寺川西岸、南北に延びる丘陵東麓に立地する。北から順に北門と北面築地、西面築地、講堂、金堂、西塔、南門が確認されている。東塔の存在も推測でき、薬師寺式の伽藍配置と考えられる。寺域は南北 125m、東西推定 84m と南北に長い。軒丸瓦と軒平瓦が 4 種類ずつ出土し、7 世紀後葉から 8 世紀前葉にかけての造立と考えられている。また、出土土器から、7 世紀末から 9 世紀初頭までの期間が寺院の存続期間とされ、その存続期間は短く、僧房などを構えることなく終焉を迎えたと考えられる。					●				●	
20	山の脇瓦窯跡	繁昌町	遺跡 (窯跡)	繁昌廃寺の西北隅のすぐ外側にあたり、丘陵斜面の裾部に位置する。発掘調査によって、半地下式の窖窯の後半部が明らかとなった。残存長は 3.5m である。煙道は比較的良好に遺存し、平瓦を貼り付けて補強されていた。軒丸瓦・軒平瓦を出土している。	県史跡					●				

表 28 九会地区の歴史文化遺産（5／7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
21	姫路道	—	遺跡 (古道)	加東郡から坂本を通り、姫路に向かう。この経路の大部分は、播磨清水寺から法華山一乗寺を経由して書写山円教寺に向かう、西国三十三カ所を巡る巡礼路（巡礼道）として利用されてきており、寺社参詣の道としての機能を有していた。西国巡礼は、近世半ば以降、年間約1万～3万人もの巡礼者があったとされ、未開地であった青野ヶ原でも宿屋が営業していた記録があり、多くの巡礼者により沿道の宿場等が発展した。またこの経路は京都方面に向かうと西京街道と合流して「京・大坂道」と注記がある。						●				
22	兵庫街道	—	遺跡 (古道)	北条から東高室を経て、美囊郡方面に向かう。						●				
23	姫路海軍航空隊基地 (鷯野飛行場跡他)	鷯野町	遺跡 (戦跡)	昭和17年(1942)6月のミッドウェー作戦の失敗により、日本海軍は戦場での制空権の重要性を認識し、同年秋、パイロットを急遽養成するため、基地航空兵力の増隊を決定した。昭和18年(1943)10月、鷯野に姫路海軍航空隊を開隊。航空隊には、17歳から25歳までの若者が全国から約320名集められ、ここで30時間の飛行訓練を受けた後、各航空隊へと散っていった。昭和20年(1945)には、練習生による神風特攻隊「白鷺隊」が編成され、終戦までに63名の尊い命が失われた。終戦後、約250万㎡に広がった基地跡では、食糧増産のためや引揚者などの受入先として、開拓事業が行われたり、アメリカ軍の接收後、各省庁へ払い下げられ、県立兵庫農科大学（現神戸大学大学院農業研究科）の附属農場が建設されるなど、かつての基地施設を解体しながらさまざまな利用が進められてきた。しかし、一部の滑走路や頑強なコンクリート構造物はそのまま残り、今でも数多くの戦跡が所々に残されている。									●	
24	鷯野平和祈念の碑苑	鷯野町	遺跡 (戦跡)	戦後54年を経た平成11年(1999)、旧海軍関係者、地元有志等が協力し、特異な歴史的背景を持つ鷯野飛行場跡を貴重な歴史文化遺産として後世に伝えるとともに、尊い犠牲の上に築かれた今日の平和が永遠に続くことを祈念し、鎮魂の想いを込めて、「平和祈念の碑」が建立された。									●	

表 29 九会地区の歴史文化遺産（6 / 7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
25	列車転覆事故 殉難の碑 (列車転覆事故 解説看板)	網引町	遺跡 (戦跡)	昭和 20 年(1945)3 月 31 日 午後 3 時 30 分頃、北条町駅発 栗生行上り列車が、網引駅付近 で脱線転覆した。この事故の原 因は、海軍による最終検査中の 紫電改のエンジンが急停止し、 不時着しようとした際、線路を 引っかけたことによるものであ った。死者 11 人、負傷者 62 人 の大惨事となった事故であった が、結局詳しい調査をされるこ とはなかった。平成 15 年 (2003) 8 月、犠牲者の鎮魂と 事故を後世に伝えるため、網引 駅前に看板を建立し、公共交通 の安全を見守っている。										●
26	三宅家古庭園	中野町	名勝地 (庭園)	三宅家は江戸時代より酒造業 を営んできた。明治時代に姫路 藩筆頭家老である河合道臣の屋 敷に建つ書院建築等を買収求 め、庭園とともに現在地に移し たという。庭園は、前庭部と主 庭部の二庭に分かれている。飛 石と植栽を中心とした庭園構成 である。主庭である書院庭園は 池泉庭園である。	市名勝		●							
27	あびき湿原	網引町	動物 植物 (群落等)	加西市の重要な生態系に選ば れる県内でも非常に規模の大き な湧水湿原である。多くの絶滅 危惧種の動植物が生息しており、 貴重な自然を守るため手造り の木道が設置されている。 この豊かな自然を子どもたち に伝えていくため、周辺住民が 中心となり「あびき湿原保存会」 が発足した。湿原保全や希少動 植物保護を目的に、冬場は湿原 内の枝木の伐採や散策道の整備、 春夏はボランティアガイド として湿原の魅力を伝える活動 を行っている。7 月には、湿原 が水を含み、ハッチョウトンボ やサギソウなどの貴重な動植物 の観察ができる。 糠塚山とともに、環境省の生 物多様性保全上重要な里地里山 に選定されるなど、自然豊かな 美しい景観が保全されている。				●						
28	上池・下池	網引町	文化的景観	湧水が豊富で枯れたことがな いという上池は、隣接する下池 とともに農民の命綱となってきた。 冷たく澄んだ水が、貴重な 固有種であるヒメコウホネやイ ヌタヌキモを守ってきた。				●						
29	水正池	上宮木町	文化的景観	ハクチョウが、約 4,000km に 渡る長旅を終え、加西市に飛来 するが、水正池もハクチョウの 越冬地のひとつ。ハクチョウが				●						

表 30 九会地区の歴史文化遺産（7 / 7）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
29	水正池	上宮木町	文化的景観	初めて飛来したのは 1980 年ごろで、当時は数羽だったが、近頃は 30 羽以上の群れが飛来する。3 月上旬まで観察でき、冬の風物詩として親しまれる景観を呈している。				●						
30	飯盛野疎水	鶉野町	文化的景観	万願寺川の水を九会・富合・下里の三カ村にまたがる飯盛野に引くための用水路である。明治 34 年（1901）から大規模な灌漑・疎水事業が進められ、万願寺川下流域の住民の反対や日露戦争により、事業は一時停滞するも、日露戦争後の明治 40 年（1907）3 月に完成した。中国東北部の地名を冠した奉天池、旅順池も新たに築造され、日露戦争の戦勝記念事業でもあった。				●						

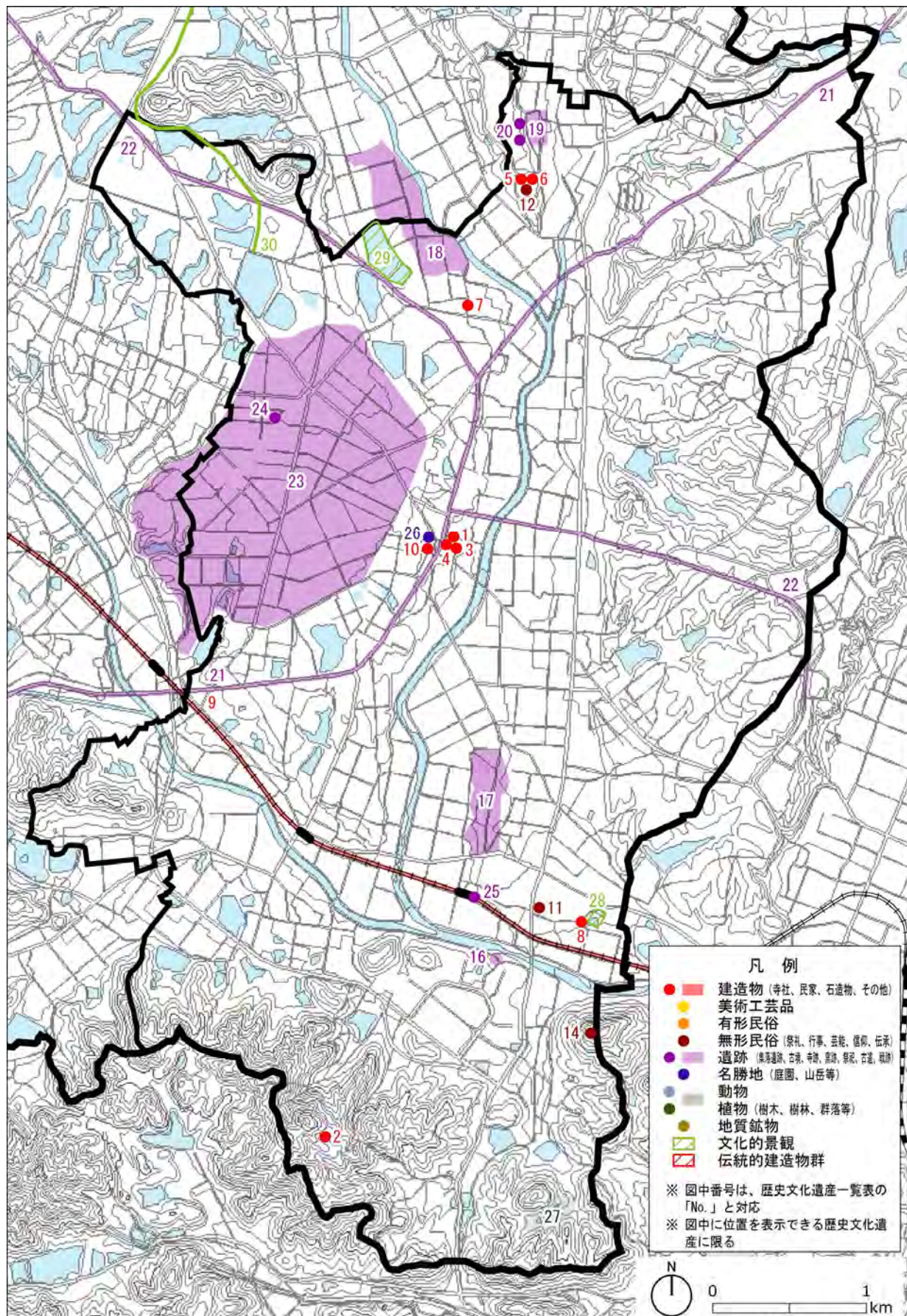


図6 九会地区の歴史文化遺産の分布

富 合 地 区

都染町，別府町，常吉町，朝妻町，豊倉町，玉野町，山枝町，玉丘町，青野原町

表 31 富合地区の歴史文化遺産（1／5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	玉野石仏	玉野町	建造物 (石造物)	家形石棺の蓋石の内側に阿弥陀如来坐像を薄肉彫りする。鎌倉時代後期の作と考えられる。蓮台に彩色の痕跡があり、造立当初は像全体に彩色がされていたと思われる。	市有文	●							●	
2	薬師堂板碑	玉野町	建造物 (石造物)	玉野薬師堂の境内にある。上下2つに割れている。高室石製と思われる組み合わせ箱式石棺の底石で、周囲に側面の石をはめ込む溝が彫られている。建治3年（1277）の銘がある。	市有文	●							●	
3	石棺蓋石 (山伏峠石棺仏)	玉野町	建造物 (石造物)	松林の峠の山道にひっそりと佇む3基の石仏。約700年前の南北朝時代に造られ、うち1つは、古墳時代後期の家形石棺の蓋石に阿弥陀坐像を彫ったもので、県下最大の石棺仏とされる。「ひょうごランドスケープ100景」でもとりあげられている。	県有文	●							●	
4	薬師堂石造五輪塔	玉野町	建造物 (石造物)	玉野町薬師堂境内の東北隅に建つ。保存良好で、応安4年（1371）の銘がある。市内における在銘五輪塔の代表的遺品として貴重である。	市有文	●								
5	玉丘町道標	玉丘町	建造物 (石造物)	古坂からつづく旧街道の三叉路に3基の石の道標がある。「右三木はんじょう」「左社…」と刻まれている。右へ行けば、小野、三木、兵庫とつづく兵庫街道、左へ行けば、社、篠山、京都とつづく西京街道の分岐点であった。		●				●				
6	檜原里	—	無形民俗 (伝承)	ナラが生えていたため「檜原」と呼んだとあり、かつては地名になるほどの大きな森林があったことが想起される。しかし、現在はナラに関連する地名は残っておらず、旧地形から考えると、江戸時代に開拓された鶴野台地に檜原の里の中でも最も大きな林があったとも考えられる。					●					
7	飯盛嵩	豊倉町	無形民俗 (伝承)	大汝命が飯をこの山で盛ったことから名づけられたという。現在の県立フラワーセンター内の飯盛山にあたとされる。					●					
8	玉丘 玉野村	玉丘町 玉野町	無形民俗 (伝承)	この地の有力者の娘・根日女が、意奚・袁奚の2人の皇子から同時に結婚を申し込まれた。しかし、2人が譲り合っているうちに、根日女は年をとって死んでしまった。悲しんだ二人は根日女のために墓を造り、きれいな玉で飾った。現在の玉丘町の玉丘古墳にあたとされる。玉丘の墓がある村を「玉野」と名付けたとされる。柿ノ木遺跡や長法寺遺跡、内町遺跡などでは、奈良時代の建物跡が発見されており、広範囲に集落が展開					●					

表 32 富合地区の歴史文化遺産（2／5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
8	玉丘 玉野村	玉丘町 玉野町	無形民俗 (伝承)	しているこの地域が、往時の玉野村の様子を示しているものと考えられる。					●					
9	川合里	—	無形民俗 (伝承)	乎疑原神社の梵鐘に、「播州賀西郡西河合郷」とあり、小野市の河合地区からこのあたりまでが川合里と呼ばれたと考えられる。					●					
10	逆池遺跡	玉野町	遺跡 (集落遺跡)	丘陵東南側の裾部に立地し、現在はため池になっている。旧石器時代の石器が採集され、縄文時代でも土器は確認されずに石鏃・石錐・剥片などの石器類や球状耳飾が採集されており、縄文時代の早期から前期に主体がある遺跡とみられる。			●							
11	長塚遺跡	豊倉町	遺跡 (集落遺跡)	本市中央東部の万願寺川西岸の段丘上に立地する。弥生時代中期から後期頃の 50 棟以上の多様な形態の竪穴住居址をはじめ、墓、土坑、溝等が多数検出され、付近の殿垣内遺跡や土井ノ内遺跡とともに、万願寺川中流域の拠点集落とされる。また、その後の 7 世紀前半の方形竪穴住居址や須恵器、土師器も出土し、12 世紀を中心とした遺物も確認されている。特に、室町時代末から戦国時代頃に石材加工を主とした工房跡が確認され、中世末期の石材産業の実態を解明する上で注目される遺跡である。			●							
12	山枝遺跡	山枝町	遺跡 (集落遺跡)	本市中央部の万願寺川東岸の段丘上に立地する。縄文時代では、サヌカイト製で完形資料の有舌尖頭器 1 点が出土し、付近に縄文時代草創期の遺跡がある可能性を示唆する。弥生時代では後期の竪穴住居址 5 棟や溝等が検出され、壺・甕・高杯・鉢が出土しており、集落が形成されていたことが知られる。			●							
13	柿ノ木遺跡	玉野町	遺跡 (集落遺跡)	本市中央部の万願寺川西岸の低位・中位段丘上に立地する。長法寺遺跡、大坪遺跡、宮ノ谷遺跡、内町遺跡等が隣接し、全体で約 40 万㎡の巨大な遺跡群として存在する。弥生時代中期の方形周溝墓や後期の竪穴住居址が検出され、中期から後期の万願寺川中流域の拠点集落とされる。また、奈良時代の大型の掘立柱建物跡も検出され、有力者層の館跡の可能性も推察されている。			●							
14	玉丘古墳	玉丘町	遺跡 (古墳)	全長約 109m、前方部幅約 54 m、後円部径約 64mの兵庫県下 5 番目の規模をもつ古墳時代中期の前方後円墳である。墳丘は、3 段築成からなり、後円部中央	国史跡 ※玉丘古墳群				●					

表 33 富合地区の歴史文化遺産（3／5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
14	玉丘古墳	玉丘町	遺跡 (古墳)	には、盗掘穴があき、穴底に凝灰岩製の長持ち形石棺材が残っている。墳丘くびれ部の一方には、造出し部が確認でき、凝灰岩の葺石が残る。墳丘周囲には、幅約 20m の周濠が巡り、外堤には円筒埴輪が樹立していたとされる。出土遺物には、家形・鶏形埴輪のほか多数の円筒埴輪がある。『播磨国風土記』に記載された根日女伝承の舞台として知られる。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
15	玉丘古墳石棺	玉丘町	遺跡 (古墳)	玉丘古墳の後円部中央の埋葬施設盗掘坑底には、凝灰岩製の長持ち形石棺の一部が残っている。長持ち形石棺には、他に山伏峠石棺や経塚古墳石棺、玉丘祇園山 1 号墳の石棺があるが、石棺の全容が分かるものはなく、唯一玉丘古墳の石棺からその様子を復元できる。蒲鉾型断面の蓋石と棺身からなり、棺身は側石、小口石、底石の各部から成る組合せ式石棺であるが、底石を除き破壊されている。石棺の内法は長さ 2m、幅 1.1m で、墳墓内に石棺を直におさめた石棺直葬と考えられる。昭和 6 年（1931）の現地調査から 84 年ぶりの平成 27 年（2015）の調査では、当時確認された石棺材がすべて残っていることが確認され、国内屈指の規模をはかり、整美な装飾の施された長持ち形石棺であることが再確認された。装飾の施された長持ち形石棺は全国で数例しかなく、まさに大王級の石棺が玉丘古墳に用いられたといえる。	国史跡 ※玉丘古墳群	●								
16	玉丘古墳陪塚 1 号墳	玉丘町	遺跡 (古墳)	径約 25m の円墳とされるが、東側の方丘部とあわせて前方後円墳とする説もある。墳丘中央には、盗掘穴があいている。周濠は、改変が著しく、墳丘裾には葺石がかるうじて残っている。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
17	玉丘古墳陪塚 2 号墳	玉丘町	遺跡 (古墳)	墳丘は大きく削られているが、幅約 4m の溝が墳丘周囲を方形に巡り、一辺長約 24m の方墳である。周濠からは、埴輪と凝灰岩片が出土し、古墳時代中期の古墳であることが判明している。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
18	壇塔山古墳	玉丘町	遺跡 (古墳)	径約 17m の古墳時代中期の円墳である。主体部、墳丘施設等の施設については不明であるが、墳丘周囲に巡る幅約 3m の周溝から埴輪片が出土している。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					

表 34 富合地区の歴史文化遺産（4／5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
19	クワンス塚古墳	玉丘町	遺跡 (古墳)	径約 35mの古墳時代中期の円墳である。墳丘には、方形の造出し部が付き、2 段の盛土からなる。墳頂及びテラスには、円筒埴輪等の埴輪が巡り、斜面及び墳丘裾に凝灰岩の葺石が残る。墳頂に竪穴式石槨が残る。副葬品には、武具や農工工具有り、造出し部からは形象埴輪や土器類、土製品が出土している。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
20	逆古墳	玉丘町	遺跡 (古墳)	標高 70mの段丘尾根上に立地する。墳丘部は土取りにより大きく削平を受け、墳頂部に大きな攪乱坑があり、墳丘裾部は垂直に削平されている。残された墳丘部の形状から、墳丘径約 30mの円墳に推定されている。周濠部の推定地の確認調査の結果、幅 2.5～6.5m、深さ 0.6mの溝が検出され、埴輪片、須恵器片が出土したが、溝の規模、方向等から古墳にともなう周濠とは考えにくく、逆古墳は周濠を持たない可能性が高いといえる。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
21	北山古墳	玉丘町	遺跡 (古墳)	標高 90mの丘陵尾根端部に立地する。墳丘径約 25m、墳高 4.7mの 2 段築成の円墳である。外部施設として葺石、埴輪列が確認され、埴輪列の復元径から約 400 本の埴輪が設置されていたと推察されている。埋葬施設は墳頂部中央からやや東に位置する竪穴式石室で、石室内から鉄器や玉類が出土している。	国史跡 ※玉丘古墳群				●					
22	西京街道	—	遺跡 (古道)	北条から山枝を経て、加東郡に向かい、社・古市・亀岡（亀山）を経て、京都に向かう。						●				
23	青野原俘虜収容所	青野原町	遺跡 (戦跡)	大正 4 年（1915）5 月、3 カ所の寺院を収容所として使っていた姫路収容所では、新たな収容所を陸軍の演習場がある青野原台地に開設することが決定した。同年 6 月から建設を開始して 9 月に竣工し、その後捕虜たちが青野原に移送された。捕虜が解放される大正 9 年（1920）1 月頃まで使用された。 青野原収容所には、捕虜たちが生活するために兵卒用宿舎（バラック）3 棟、将校用宿舎 1 棟があり、さらに事務室及び医療室用のバラック、厨房および浴室、酒保があった。ここに多い時で 500 人弱の捕虜が暮らしていた。500 人のうち約半数がオーストリア-ハンガリー兵であり、国内の同国捕虜の 8 割を占める。そのため、他所にはない多民族・多言語の収容所となった。捕虜は一定の制約下										●

表 35 富合地区の歴史文化遺産（5／5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
23	青野原俘虜収容所	青野原町	遺跡 (戦跡)	には置かれていたが、国際条規に基づいて比較的自由が認められていた。このため、捕虜が遺した写真や絵画、日記などからは、収容所内のみならず、往時の加西の様子をうかがい知ることができる。収容所の跡地には、第二次世界大戦後に開拓民が入植し、収容棟を利用して開拓村としたため、収容所の土地区画が現在の集落に残っている。										●
24	長倉池	玉丘町	文化的景観	毎年稲作終了後の池干しが終わり、水が溜まり始めると付近の池で越冬していたコハクチョウが飛来し、北帰行までの集結地となる。近畿地方におけるミズトラノオの代表的な群生地であり、池周辺はカスミサンショウオ、ニホンアカガエル、ヒメナエ、ゴマクサなどの貴重な動植物が生息し、農業高校等の環境研究活動の拠点のひとつとしても利用されている。				●						
25	逆池	玉野町	文化的景観	亀山古墳や玉丘古墳の周辺に立地する歴史的な環境を有する地域のなかにあり、逆池を利用したさくら親水公園が整備され、県民、市民に親しまれている。池にはカモやアヒルがみられ、芝生広場は市民の憩いの場となっている。さらに加西市出身の宮史郎にちなみ「女のみち」の歌碑がつけられている。				●						
26	飯盛野疎水	豊倉町 玉野町	文化的景観	万願寺川の水を九会・富合・下里の三カ村にまたがる飯盛野に引くための用水路である。明治34年（1901）から大規模な灌漑・疎水事業が進められ、万願寺川下流域の住民の反対や日露戦争により、事業は一時停滞するも、日露戦争後の明治40年（1907）3月に完成した。中国東北部の地名を冠した奉天池、旅順池も新たに築造され、日露戦争の戦勝記念事業でもあった。				●						

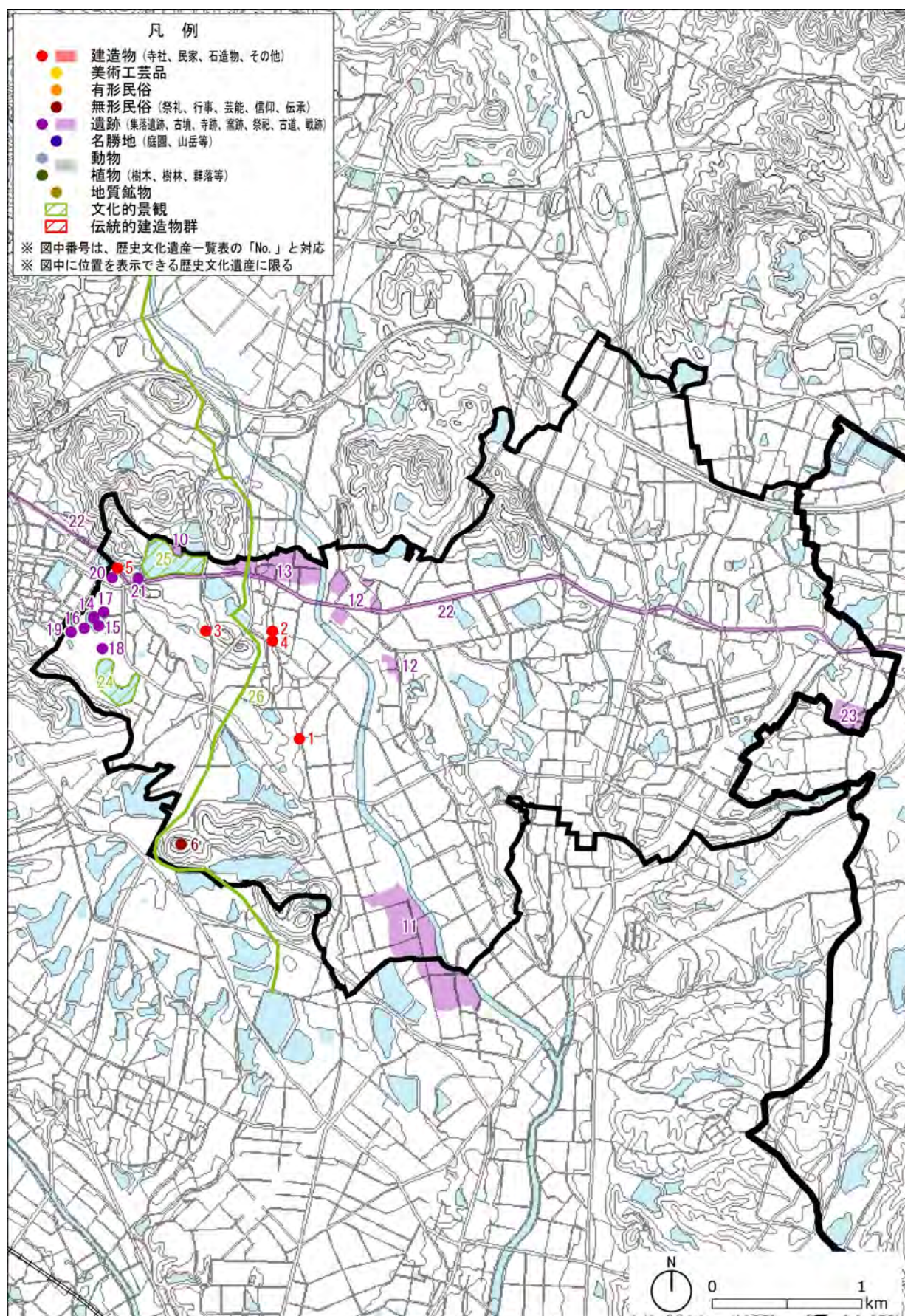


図7 富合地区の歴史文化遺産の分布

多加野地区

和泉町, 河内町, 山田町, 野上町, 池上町, 西野々町, 島町, 満久町, 馬渡谷町, 大工町,
鍛冶屋町, 油谷町, 田谷町, 国正町, 小印南町, 青野町

表 36 多加野地区の歴史文化遺産 (1 / 5)

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	八王子神社	田谷町	建造物 (寺社)	長暦元年(1037)、第69代後朱雀天皇により建立されたという神社で、その後戦火により2回焼失した。現在の社殿は元禄6年(1693)、当時の赤穂藩の郡奉行で、後に吉良邸へ討ち入る吉田忠左衛門の尽力で再建されたと伝えられ、当時は社領10町歩(約10万㎡)を有する大社であったと伝える。							●			
2	普光寺	河内町	建造物 (寺社)	白雉2年(651)法道仙人開基と伝わる古刹で、中世には播磨六カ寺の一つとして栄えた。『播磨鑑』によると、かつて一乗院、明星院、随縁院、蓮乗院、安養院、園院の6院があったとされ、今も山門から続く長い参道脇には、坊跡と思われる石垣や段平地が残り、多数の院坊を有した往時を偲ばせる。					●				●	
3	奥山寺	国正町	建造物 (寺社)	白雉2年(651)法道仙人の開基と伝える。境内奥の高台に建つ多宝塔は、宝永6年(1709)築で、酒見寺多宝塔と同じ大工集団により建てられ、地元大工が建立した多宝塔として貴重である。子院建築も含め、江戸時代の建造物が多数残り、その多くに地元の大工が関与し、自由な感性・地方色が随所にみられる。特に本堂は、江戸時代中期の播磨地方における代表的な中世仏堂とされる。山裾の地藏院から本堂への石段両側に楓の大木が並び、紅葉の時期には市内外から多くのカメラマンが押しかける。	県有文 ※多宝塔 市有文 ※仁王門		●							
4	日吉神社鳥居	和泉町	建造物 (石造物)	日吉神社の正面で、隨身門の東100mほどのところにある。形態は明神鳥居で、足元間隔は芯々365cm、高さは地面から島木上端まで400cm、柱は直径50cm内外の隅丸方形で内転びがある。造立年代は額束と柱に元和6年(1620)の銘があるが、島木・笠木などの形態的特徴は中世的な古風さを伝える。	県有文	●								
5	普光寺石造宝篋印塔	河内町	建造物 (石造物)	普光寺境内の弁天池上方の平坦地の一角に建つ。銘はなく造立年代は明らかでないが、各部の様式手法より室町時代末期頃の造立と推定され、室町時代としては大型の宝篋印塔である。	市有文	●								
6	大日寺石仏群	野上町	建造物 (石造物)	大日寺の境内にある石仏群。その一つ、浮彫薬師如来坐像は、高室石製と思われる家形石棺の蓋石の内側に如来像を半肉彫する。鎌倉時代から南北朝時代にかけての造立と考えられる。石仏群の多くは江戸時代の造立と考えられ、地藏の背面に彫られ	市有文	●							●	

表 37 多加野地区の歴史文化遺産（2 / 5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー									
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	
6	大日寺石仏群	野上町	建造物 (石造物)	た十字の意匠をキリシタン信仰と関連付ける説もある。	市有文	●								●	
7	春岡寺石仏	池上町	建造物 (石造物)	春岡寺の境内に立つ。家形石棺の蓋石の内側に阿弥陀如来坐像を半肉彫りする。鎌倉時代後期の造立と考えられる。像の腹部で上下に割れており、地元では「腰折れ地蔵」と呼ばれている。	市有文	●								●	
8	大石内蔵助の立石	大工町	建造物 (石造物)	大工町の旧道の路傍に高さ50cmほどの自然石が立っている。大石内蔵助が当地を訪れた際にたびたび宿泊した久学寺と穂積代官役所（加東市）とのほぼ中間地にあり、大石一行が巡行の際にこの立石で一息ついたのではないかということから、地元では大石内蔵助の腰かけ石と呼ばれている。							●				
9	高橋醤油	和泉町	建造物 (その他)	大正10年（1921）創業。加美町（現多可町）で修業して技術を持ち帰り、和泉町で醤油製造を開始した。昭和初期には「丸庄」の商号で品評会に出展して二等賞を得ている。その後、「ハナイズミ」と変え、現在は「サクライズミ」の商号で製造している。				●							
10	池上日吉神社の秋祭り	池上町	無形民俗 (祭礼)	日吉神社は池上町に鎮座し、中央に大山咋命和魂、右に大山咋命荒魂・大己貴命・田心姫命、左に鴨玉依姫命和魂・鴨玉依姫命荒魂・白山比売命を祀り、明治42年（1909）より素戔鳴命・誉田別命・大歳神を合祀して祀る。淳和天皇の天長年間（824～834）に比叡山坂本山王権現を勧請したものと伝わる。 秋祭りは、かつては旧暦9月9日であったが、現在は10月第2土曜（宵宮）・日曜（大祭）となる。氏子は池上・河内・山田・和泉（甲・乙）・野上・中富・都染・別府（東・中・西）・西野々・満久・島・青野原の各町で、隔年で六社（以前は田谷八王子神社の神輿も出て七社）の神輿の渡御・宮入りが行われる。宮入りの時、河内六処神社神輿前で龍王舞が舞われる。御旅所では池上町による椎柴（祭の夜に現れる神が依り代とするもの）の御供神事、本社では宮総代による椎柴の御供神事が執り行われる。かつては神輿同士の「丈競べ」も行われたが、衝突が多く、怪我人が出るため中止になり、現在は境内に入ると一旦仮置きして太鼓の共演の後、神輿の総練りが行われる。中世の惣荘（郷）結合のあり様を今に伝える貴重な行事とされる。									●		

表 38 多加野地区の歴史文化遺産（3／5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
11	田谷八王子神社 の秋祭り	田谷町	無形民俗 (祭礼)	八王子神社は田谷町と油谷町の入会に鎮座し、中央に国狭槌命、右に伊弉諾命・大己貴命、左に伊弉冉命・天津彦日瓊瓊杵尊・木花咲耶姫命（明治 43 年（1910）に合祀）を祀り、他に境内に伊勢内外宮をはじめ六社を祀る。社殿は元禄 6 年（1693）改築と伝え、幣殿・拝殿は明治 17 年（1884）改築である。 この八王子神社の神輿も、かつては日吉神社の七社立会神事に参加していたが、昭和 30 年（1955）以降参加しなくなる。10 月第 2 日曜日の秋祭りでは、八王子神社鳥居前にある御旅所までの神輿渡御と酌神事が行われる。田谷・油谷・国正・小印南・青野・馬渡谷・大工・鍛冶屋の各町が輪番で祭礼当番と神輿担ぎを行い、本社と御旅所で酌神事が行われる。酌神事とは、八王子神社の祭神（男神）と妙見社の祭神（女神）との婚礼を取り持つ神事といわれ、三三九度の杯を交わす産土信仰の一環の行事である。八王子神社社伝によると、平安中期の後朱雀天皇の時代に奥山寺妙見神輿造営の時から始まったとされる。										
12	上鴨里 下鴨里	—	無形民俗 (伝承)	品太天皇（応神天皇）の時代、つがいの鴨が巣をつくって卵を産んだところ。後に上と下の 2 つの里に分かれた。糠岡の地名説話にみられる大汝命（大国主）が下鴨里で靫を碓でついた所を「碓居谷」、箕を置いた所を「箕谷」、酒を供える祭壇の酒屋を作った所を「酒屋谷」と呼んだとするが、これらの場所は不明である。										
13	雲潤里	—	無形民俗 (伝承)	雲潤の太水の神と丹津日子神のかけあいの中で、川を掘るのに飽きてしまったという時、昔の言葉で「飽きる」ことを「倦み（うみ）」と言ったため、「ウルミ（雲潤）」とよばれるようになった。この名前が現在の「宇仁」になっている。										
14	河内里	—	無形民俗 (伝承)	住吉大神が従神とともに村に現れた際、従神が苗代をつくるための草わらを大神の敷物にしてしまった。困った草主がそのことを大神に伝え、大神は「汝の田は草を敷かなくても苗が生育する」と言い、これ以降、この村では草を敷かなくても苗代ができるようになったという。鎌倉山の頂上から見える普光寺川上流域が河内里に比定される。海神の伝承が内陸部に伝										

表 39 多加野地区の歴史文化遺産（4／5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
14	河内里	—	無形民俗 (伝承)	わる背景には、賀毛郡の山林が住吉大社の杣山にあてがわれたためとされる。					●					
15	煮坂	河内町	無形民俗 (伝承)	品太天皇が狩りをした時、矢で射とめた鴨を羹（あつもの）にして煮たところを「煮坂」（河内町二ヶ坂）と呼ぶようになったという。賀毛郡と託賀郡の郡境であった峠である。					●					
16	河内城跡	河内町	遺跡 (城跡)	室町時代の応永27年(1420)に加西市域を中心に北播磨を支配した赤松一族衆在田氏の居城として築城された。現在も登城道、堀切跡などが残る。六処神社の西側の山頂に築かれた山城跡に至るルートは、遊歩道として整備され、神社が登山口となっている。また、周辺の森林は「河内ふれあいの森」として整備され、要所に道標や東屋などが設けられている。							●			
17	満久城跡	満久町	遺跡 (城跡)	市北部の独立丘陵上に立地し、市域の平野部を見渡することができる。15世紀後期に加西郡に拠点をもつ在地土豪である満久（内藤）氏が築城したとされる。曲輪・切岸・堀切・横堀・土塁・竪堀が確認できるが、羽柴秀吉による播磨平定の過程で、織豊勢力の支城として改修された可能性がある。							●			
18	丹波・宮津街道	—	遺跡 (古道)	北条から古坂・河内を経て丹波に向かう。						●				
19	鎌倉山行者道	河内町	遺跡 (古道)	鎌倉山は、大きな磐座をもち、高く美しい姿や近郷一円の水源地であったことから、神体山として、神話や伝説にも数多く登場する。奈良時代に役小角が創始した修験道は、平安時代頃から神仏習合を背景に盛んになり、江戸時代に民衆の生活に深く浸透し、加西でも修験道が盛んになる。明治35年(1902)、普光寺明星院住職によって、鎌倉山に連なる峰々に行者道が開かれた。その後、行者道は荒れていたが、地元住民の努力によって、ハイキングコースとして整備されている。道端には、釈迦如来や大日如来、孔雀明王などの多くの石仏が祀られるなど、行者道の面影を残す。									●	
20	内藤家古庭園	満久町	名勝地 (庭園)	内藤家は享保年間(1716～1736)頃から医業を始め、代々医業で渡世してきた。嘉永5年(1852)作成の屋敷見取り図には「池」と記した庭園図が描かれており、江戸時代後期には作庭されていたと考えられる。庭園は、池泉鑑賞式庭園で、土堀	市名勝		●							

表 40 多加野地区の歴史文化遺産（5／5）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
20	内藤家古庭園	満久町	名勝地 (庭園)	際に築山を造り、瓢箪型の池を掘る。中心に滝石組を組み、出島を造って自然石の石橋をかけ、東部から石段により築山に登れるようにして、そこに四阿を造るという構成である。	市名勝		●							
21	普光寺の照葉樹林	河内町	動物 植物 (樹林)	コジイ・アカガシが優占する自然林であり、ヒメハルゼミ、モリアオガエルの産地として、市の天然記念物並びに県の自然環境保全地域に指定されている。「日本の重要な植物群落」(環境庁、1980)にも特定されている。	市天記 ※モリアオガエル生息地、ヒメハルゼミ発生地			●						
22	新条池	山田町	文化的景観	青野原新田の開発のために、千種清右衛門が築造したため池。任せ溝で了徳寺池を経て、青野原新田を潤した。				●						
23	了徳寺池	鍛冶屋町	文化的景観	青野原新田の開発のために、千種清右衛門が新条池から青野原に至る途中に築造させたため池。この地には了徳寺があったが、寺の敷地が池床に定められたため、寺の敷地は青野原に移されたという。その後、ため池が築造され、移した寺の名を冠して了徳寺池と呼ばれるようになった。				●						
24	任せ溝	山田町 馬渡谷町 鍛冶屋町 青野町	文化的景観	青野原新田の開発のために造られた新条池から了徳寺池までの全長約 8 km の用水路。加西郡の村々に工事を任せたことから「任せ溝」と呼ばれる。用水路の一部は現在も残り、当時の様子をうかがい知ることができる。				●						
25	天下溝	和泉町 野上町 青野町	文化的景観	青野原新田の用水として、普光寺川の水を野上町で堰き止めて平地へ送る野上井堰が、宝暦 12 年（1762）に完成した。この井堰から青野村を経て青野原に至る間の全長 6km 用水路は、「天下溝」と呼ばれた。この地域が幕府領であり、工事にも幕府が関係したため、このように呼ばれるようになった。用水路の一部は現在も残り、当時の様子をうかがい知ることができる。				●						

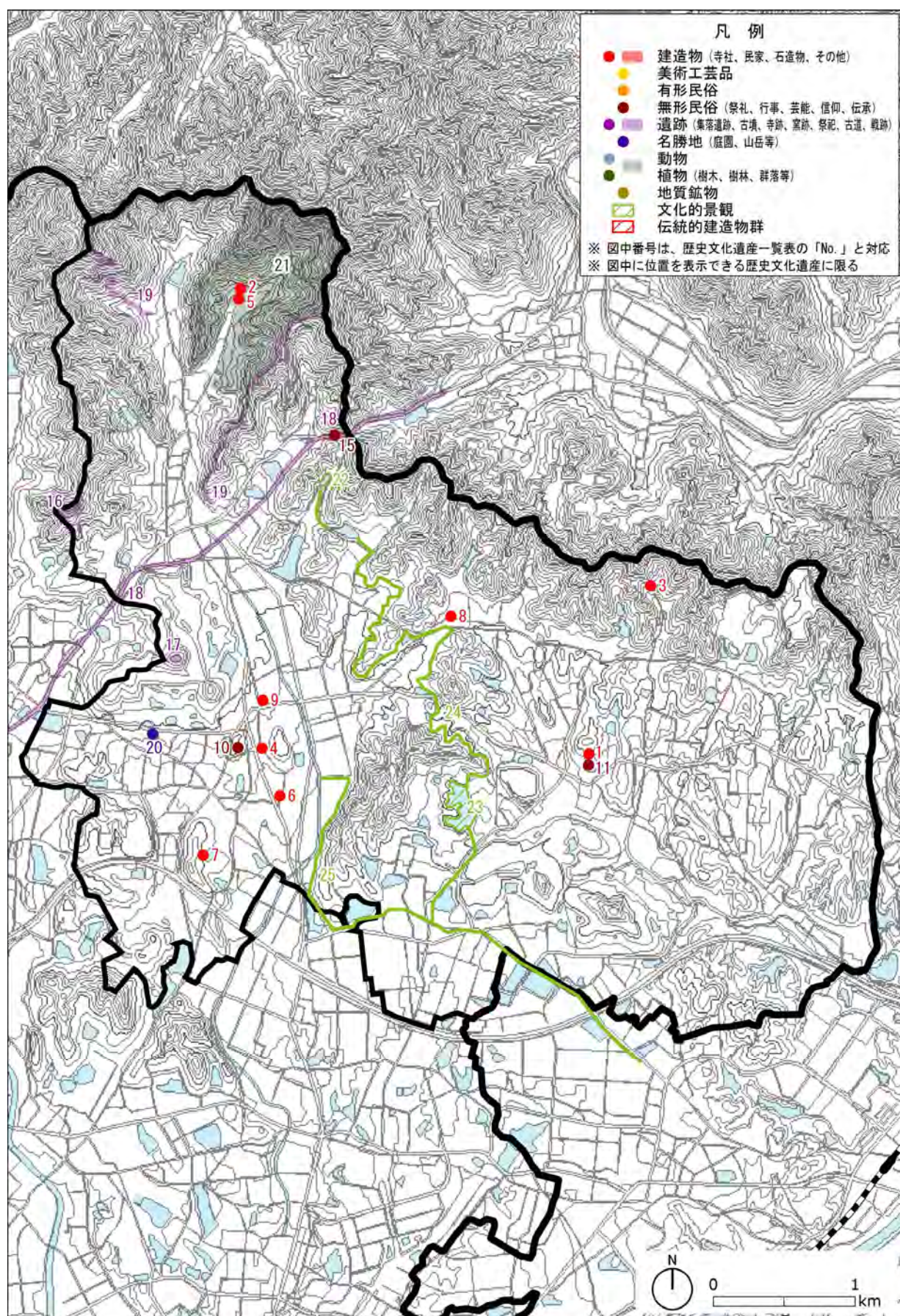


図8 多加野地区の歴史文化遺産の分布

西 在 田 地 区

若井町，大内町，下道山町，上道山町，下万願寺町，上万願寺町

表 41 西在田地区の歴史文化遺産（1 / 1）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	東光寺の 田遊び・鬼会	上万願寺町	無形民俗 (行事)	田遊びは五穀豊穡を祈る儀式であり、農作業のしぐさを奉納する。県下では東光寺のみで続けられている貴重な儀式である。鬼会は悪霊や災難を追い払うもので、元々は 12 世紀初めに京都の天台系寺院の修正会の結願日の行事として登場した。鎌倉時代末期には京都から姿を消す一方、主として地方の顕密系寺院の修正会の中に残されてきた。県下では、摂津から播磨で、特に播磨に密に分布する。播磨では遅くとも鎌倉時代後期から行われてきたとされ、一乗寺、普光寺、奥山寺でも行われていたとされる。 儀式は、本山にあたる比叡山の行事に合わせて、毎年 1 月 8 日午後 7 時頃より始まる。本殿拝殿での「田遊び」から始まり、福太郎・福次郎・田主が、種まきから収穫までのしぐさをして、五穀豊穡を祈る。「田遊び」が終わると、引き続き鬼会となり、赤鬼がたいまつ、青鬼が矛を持って、堂内をあばれ回り、悪霊や災難を追い払う。この福太郎・福次郎、赤鬼・青鬼には、厄年の男性が扮して厄払いをする。ここでの鬼は海のかなたや山奥から祝福のために人里に下りてくる神様のことと言われている。	国無民 ※鬼会									
2	上鴨里 下鴨里	—	無形民俗 (伝承)	品太天皇（応神天皇）の時代、つがいの鴨が巣をつくって卵を産んだところ。後に上と下の 2 つの里に分かれた。糠岡の地名説話にみられる大汝命（大国主）が下鴨里で籾を碓でついた所を「碓居谷」、箕を置いた所を「箕谷」、酒を供える祭壇の酒屋を作った所を「酒屋谷」と呼んだとするが、これらの場所は不明である。					●					
3	奥野将監屋敷跡 (磯崎神社)	若井町	遺跡 (館跡) 建造物 (寺社)	浅野家の重臣である奥野将監は、江戸城での刃傷事件後、同志とともに主君の仇を討とうと誓い、大石内蔵助を支えた。しかし、浅野家再興に主眼を置いた将監は、結局討ち入りには参加しなかった。その後、磯崎神社の神宮寺に嫁いだ娘を頼り、しばらくこの地に居を構えたと言われている。							●			

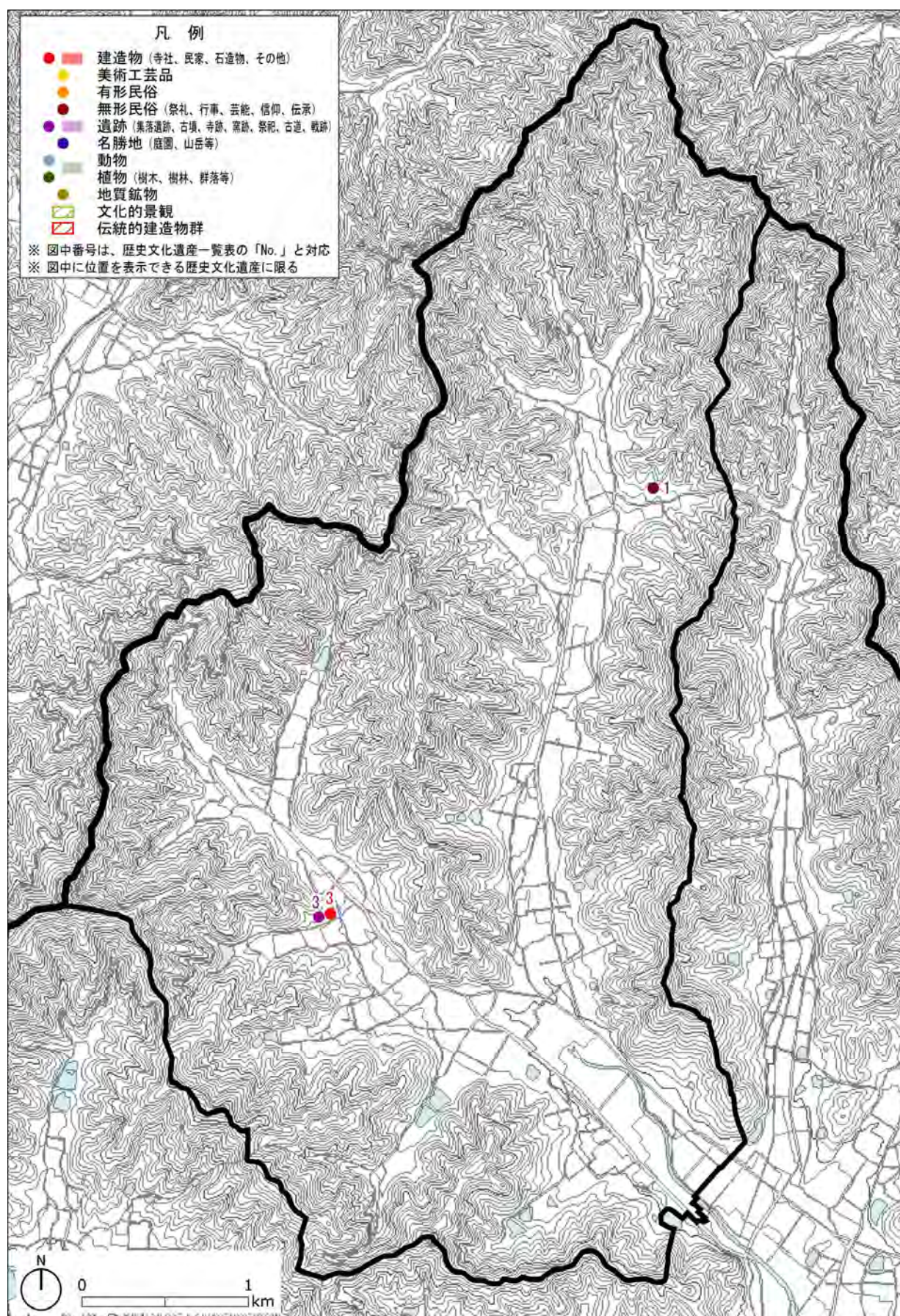


図9 西在田地区の歴史文化遺産の分布

在 田 地 区

殿原町、鴨谷町、笹倉町、中富町、越水町、北町、別所町、佐谷町、上野町、広原町、下芥田町、上芥田町

表 42 在田地区の歴史文化遺産（１／４）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	久学寺	上芥田町	建造物 (寺社)	赤穂藩三がく寺の一つ。浅野家が赤穂藩へ国替となり、赤穂藩の領地にあった久学寺を浅野家の菩提寺とした。赤穂城開城の際、大石内蔵助より住職に花岳寺の維持と永代祭祀を依頼し、その関係から四十六士の戒名を記録した過去帳があり、浅野家代々の当主及び四十六士の霊牌も祀られている。							●			
2	伝浅野家献納絵馬	上野町	美術工芸品	石部神社の拝殿正面には、浅野家より献納されたと伝わる黒馬の絵馬が掛けられている。寄進された巨大な絵馬は、浅野家の石部神社への崇敬が格別であったことを示す。							●			
3	上野石部神社の秋祭り	上野町	無形民俗 (祭礼)	石部神社は上野町に鎮座し、市杵島姫命・田心姫命・湍津姫命の三柱の女神を祀り、境内には八坂神社など 5 社を祀る。『延喜式』神名帳の「石部神社」に比定される。 秋祭りは、かつては旧暦 9 月 9 日であったが、現在は 10 月第 2 土曜（例祭・宵宮）・日曜（古例祭・本宮）となる。『郡誌』によると、氏子は上芥田・下芥田・広原・佐谷・上野・越水・北・殿原、鴨谷の各区と笹倉の在田小路とされる。古例祭では、神輿駕輿丁の禊ぎの後、神輿渡御が行われ、宮入り後には石部太鼓が奉納される。また平成 13 年度より、3 年に 1 度、別所若王子神社の神輿が石部神社へ渡御し、その時、本社境内に据えられた若王子神社神輿前にて龍王舞が舞われる。								●		
4	上鴨里 下鴨里	—	無形民俗 (伝承)	品太天皇（応神天皇）の時代、つがいの鴨が巣をつくって卵を産んだところ。後に上と下の 2 つの里に分かれた。糠岡の地名説話にみられる大汝命（大国主）が下鴨里で靫を確でついた所を「確居谷」、箕を置いた所を「箕谷」、酒を供える祭壇の酒屋を作った所を「酒屋谷」と呼んだとするが、これらの場所は不明である。					●					
5	鴨坂 鴨谷	鴨谷町	無形民俗 (伝承)	品太天皇が狩りをした時、カモに矢が当たって、そのまま山を越えて下に落ちた。越えた坂を「鴨坂」（鴨谷町）、落ちた所を「鴨谷」（鴨谷町）と呼ぶようになったという。					●					
6	長磯遺跡	殿原町 中富町	遺跡 (集落遺跡)	万願寺川左岸の微高地上に立地する。縄文時代の土坑等が検出され、土器や石鏃、削器、磨製石斧、凹石が出土している。中でも無文土器は、本市では縄文時代晩期の唯一の確実な資料			●							

表 43 在田地区の歴史文化遺産（2 / 4）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
6	長磯遺跡	殿原町 中富町	遺跡 (集落遺跡)	として貴重である。弥生時代では後期の掘立柱建物や土坑、溝等が検出され、前期から後期までの土器が出土し、当時の万願寺川中流域の大規模な拠点集落遺跡であり、野間遺跡と同様に、本市域では弥生時代前期の遺物を出土する数少ない遺跡として重要である。			●							
7	野間遺跡	中富町	遺跡 (集落遺跡)	万願寺川東岸の低位段丘上に立地する。縄文時代後期～弥生時代中期の石器・土器が出土し、弥生時代中期の竪穴住居址1棟や多数の墓、土坑なども検出されている。本市域では弥生時代前期の遺物を出土する数少ない遺跡として重要であると同時に、弥生時代の墓制を考える上でも貴重な遺跡である。			●							
8	朝垣遺跡	上野町	遺跡 (集落遺跡)	本市北部の万願寺川東岸の低位・中位段丘上に立地する。弥生時代後期後半頃の竪穴住居址8棟が確認され、住居址からはサヌカイト剥片なども見つかり、住居内で石器製作を行っていたとされる。弥生時代後期後半頃の万願寺川上流域の拠点集落といえる。また、5世紀末から6世紀前半頃の方形竪穴住居址や奈良時代から平安時代の遺構・遺物も広範囲で検出されている。			●							
9	亀山古墳	笹倉町	遺跡 (古墳)	標高162mの丘陵頂部に立地する。玉丘古墳とは眺望が開ける方向が異なり、築造の背景となるエリアの違いをうかがわせる。墳丘は長径48m、短径44m、高さ7mの不整形な円墳で、もとの地形を最大限に利用して築造され、墳頂部に岩盤が露出する。段築や葺石は施されていないが、墳丘裾に埴輪列を巡らせたとされる。武器・武具などの金属製品が出土している。	市史跡				●					
10	経塚古墳	中富町	遺跡 (古墳)	万願寺川左岸の低丘陵頂部に位置し、ゴルフ場敷地内に保存されている。ゴルフ場造成時に長持形石棺が発見されて明らかになった古墳時代中期の古墳である。直径17mの円墳又は直径17mの後円部をもつ前方後円墳の可能性がある。眺望の開けた好所に立地するため、有力者の墳墓と考えられている。	市史跡				●					
11	皇塚古墳	上野町	遺跡 (古墳)	石部神社背後の三津山山頂に立地し、元正天皇の皇女を葬ったといわれる。墳丘径16m、高さ2mの円墳で封土の流出が少なく旧態を留めており、古墳時代前期の自然の丘陵地を利用し	市史跡				●					

表 44 在田地区の歴史文化遺産（3／4）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
11	皇塚古墳	上野町	遺跡 (古墳)	て造られた古墳であると推定されている。盗掘にあっていたものの主体部には及んでおらず、鏡や刀剣、土師器、玉などが出土している。	市史跡				●					
12	殿原廃寺	殿原町	遺跡 (寺跡)	国府寺の境内に中心域が重なる。1 辺約 10m の塔跡と推測される基壇とその東の建物基壇の北側に現本堂が講堂基壇を利用して建っている可能性が高く、法隆寺式の伽藍配置が推測される。7 世紀末から 8 世紀中頃までの軒丸瓦と軒平瓦が 4 種類ずつ出土した他、補修に用いたとされる 8 世紀後半の播磨国府系の軒平瓦 2 種類が少量出土している。現本堂北側には僧房もあったと考えられており、現本堂周囲からは中世の瓦も出土し、同じ場所に仏堂が建てられたことが示される。寺院としての命脈を保った背景には、古くに定額寺として位置づけられたことがあるとされる。『大智度論』が書写された既多寺の候補のひとつとされる。					●				●	
13	小谷城跡	鴨谷町	遺跡 (城跡)	北条町小谷の集落北側にそびえる標高 218m の山上にあり、室町時代に築造された小谷赤松氏の居城となった山城跡である。応永年間（1394～1427）、赤松満祐の義弟上原民部大輔祐政が築城したとされる。嘉吉元年（1441）の嘉吉の乱では、小谷城から赤松直操（赤松満祐実弟）も駆けつけて生野峠で戦ったが、破れて自害した。その後、天文年間（1532～1555）には宇野氏が居城したとされ、天文 11 年（1542）に尼子氏との戦いで落城したともいわれる。東西 150m に及ぶ尾根上に、曲輪・土塁・横堀・縦堀などの諸施設が設けられた典型的な中世山城であるが、羽柴秀吉による播磨平定の過程で、織豊勢力の支城として改修された可能性がある。享保年間（1716～1735）には「播州加西郡小谷村古城跡図」が描かれている。現在も良好な状態で残る中世城跡で、眼下に赤松氏が治めた北条の町並みを見渡すことができ、歴史的背景を感じさせる。							●			
14	笹倉城跡	笹倉町	遺跡 (城跡)	万願寺川西岸の独立丘陵上に立地する。市域の他の城館と比較して、集落背後の低い丘陵上に位置することや、曲輪の形状が方形を指向することなどから、在地土豪の築城と想定されている。							●			

表 45 在田地区の歴史文化遺産（4／4）

No.	名称	所在地	区分	概要	指定等	歴史文化ストーリー								
						①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
15	丹波・宮津街道	—	遺跡 (古道)	北条から古坂・河内を経て丹波に向かう。						●				
16	長浜家古庭園	笹倉町	名勝地 (庭園)	裏山に笹倉城跡があり、長浜家宅が居館跡にあたるという。天保4年(1833)に作成された屋敷の見取り図が残ることから、それ以前の江戸時代後期の作庭と考えられる。庭園は、裏山の斜面を利用して築山とし、細長い池泉をうがった池泉鑑賞式庭園である。細長い池は出島を取り巻くように掘られた龍池式で流水式風に造っている。小園池ながら、地割り、石組みともに洗練されたまとまりのある庭である。	市名勝		●							
17	殿原のイチヨウ	殿原町	植物 (樹木)	樹高33m、根廻り5.9m、目通り幹囲4.0mをはかる推定樹齢300年の大イチヨウ。葉のふちに種子(ギンナン)をつける珍しいもので、これは、二股にわかれた軸の先の胚珠を乗せている部分が伸びだして葉になるために起こるといわれている。市内にはここ以外に中富町(延寿寺)、河内町(西脇市との市境付近)にお葉つきイチヨウがある。	県天記			●						
18	石部神社門杉	上野町	植物 (樹木)	石部神社の社頭、石段両側にそびえる2本の大杉。奈良時代初期の石部神社鎮座の直後、記念として手植えされたと言われており、2本とも根回り約5m、高さ約30mの大本である。	市天記			●						
19	女切池	上芥田町	文化的景観	女切池は、万願寺と芥田の集落を隔てる女切峠にあり、池には弁天を祀ったとされる石造物がある。近くの山居池とともに上芥田町の田、約30haを潤している。なお、この峠は若い二人の悲しい恋の物語「女切ろまん伝説」の舞台となった峠であり、地元では、劇化して演じるなど、伝説を伝える取り組みを進めている。				●						
20	飯盛野疎水	殿原町 笹倉町	文化的景観	万願寺川の水を九会・富合・下里の三カ村にまたがる飯盛野に引くための用水路である。明治34年(1901)から大規模な灌漑・疎水事業が進められ、万願寺川下流域の住民の反対や日露戦争により、事業は一時停滞するも、日露戦争後の明治40年(1907)3月に完成した。中国東北部の地名を冠した奉天池、旅順池も新たに築造され、日露戦争の戦勝記念事業でもあった。				●						

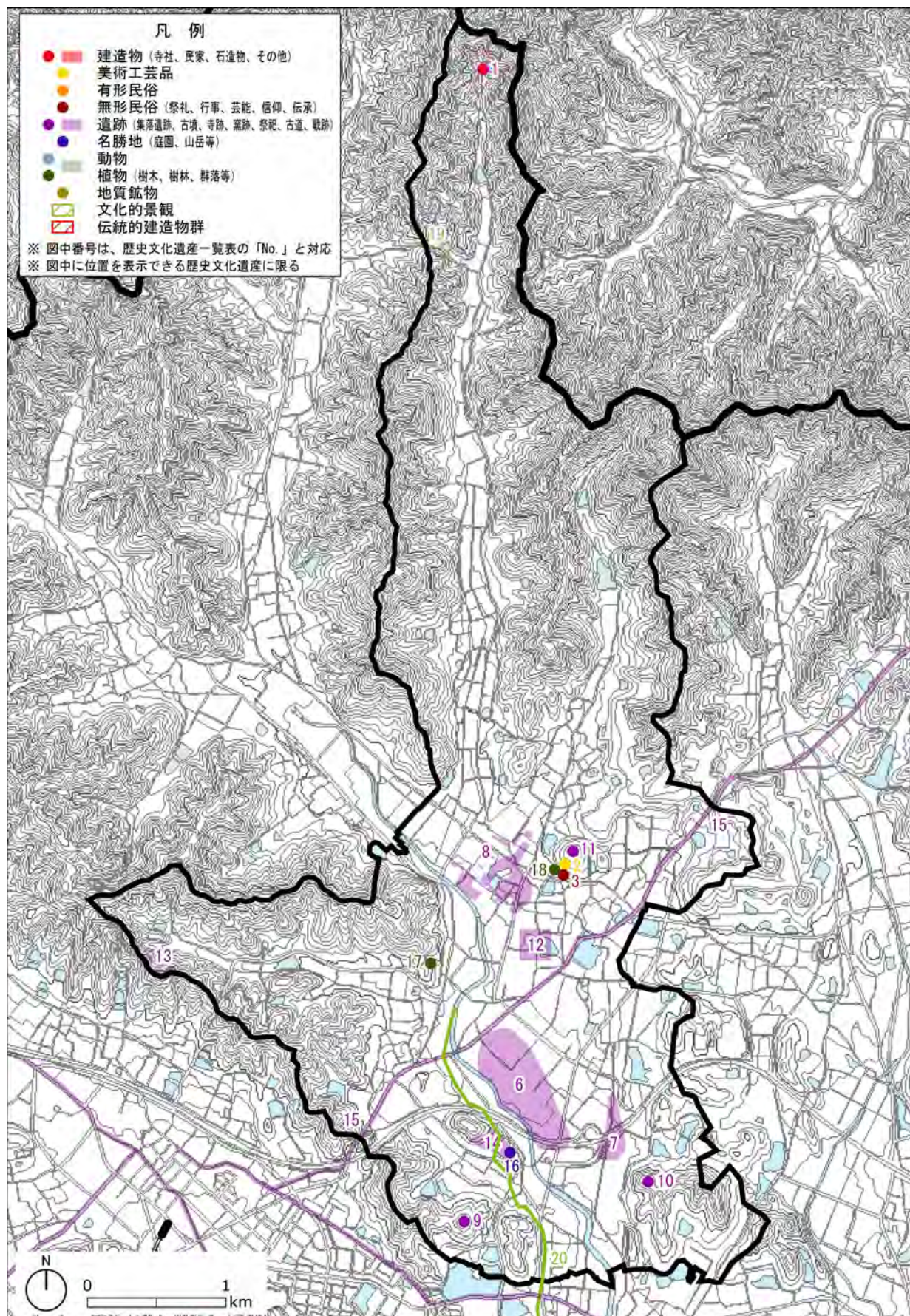


図 10 在田地区の歴史文化遺産の分布

3. 町・区アンケート調査

■ 調査目的

市民が捉える加西市や地域の歴史・文化のイメージを把握するとともに、各地域で大切にされている歴史文化遺産やそれらの保存・活用の取り組みの経緯、抱えている課題等を把握することにより、今後の加西市における歴史文化遺産を活かしたまちづくりのあり方の検討に反映することを目的とした。

■ 調査対象

町・区の長

※町・区内に他に適任者がいる場合の委任、役員や地域住民との相談の上での回答も可とした。

■ 調査対象

郵送配布・郵送回収

■ 調査期間

平成29年8月1日から平成29年8月30日まで

■ 設問構成

I 加西市の歴史・文化について

- ① 加西市の歴史・文化の特徴
- ② 市民が大切と思う歴史文化遺産と活用のあり方

II 町・区の歴史文化遺産について

- ③ 町・区を代表する歴史文化遺産と活用意向
- ④ 町・区でのこれまでの歴史文化遺産の保存・活用の取り組み経緯
- ⑤ 町・区の今後の歴史文化遺産の保存・活用の取り組み意向
- ⑥ 歴史文化遺産の保存・活用にあたっての課題

III 加西市における、今後の歴史文化遺産を活かしたまちづくりについて

- ⑦ 歴史文化を活かしたまちづくりの各施策の重要性
- ⑧ 自由意見

■ 配布数・回収数・回収率

表 46 配布数・回収数・回収率

地区	配布数	回収数	回収率
北条地区	30	19	63.3%
富田地区	13	11	84.6%
賀茂地区	15	13	86.6%
下里地区	22	18	81.8%
九会地区	15	14	93.3%
富合地区	11	10	90.9%
多可野地区	17	14	82.3%
西在田地区	7	6	85.7%
在田地区	12	9	75.0%
その他	3	1	33.3%
合計	145	115	79.3%

調査1 加西市の歴史・文化について

設問①

加西市の歴史・文化の特徴は何だと思いますか。

【母数:115】【回答数:76、特にない:29、無回答:10】

● 加西市の歴史文化の特徴を大きく捉えた表現（表47）

- ・回答の記述内容から、加西市の歴史文化の特徴を大きく捉えた表現を抽出・整理すると、古くから開けた土地に各時代のさまざまな歴史文化遺産があり、悠久の歴史を感じられるといった、「古くから連綿と続く歴史文化である」という内容の回答が10件と最も多くあげられた。また、「豊富な歴史文化遺産を有する」が7件、「豊かな自然に育まれた歴史文化である」が4件と続いている。
- ・「その他」では、少数意見ではあるものの、「日本史にも関連する」「位置と地形が大きな影響を与えてきた」「独立した個性ある文化圏」「おだやかな地域」「石の文化」などの貴重な視点があげられている。

● 加西の歴史文化の特徴を示すものとしてあげられた歴史文化遺産（表48）

- ・回答の記述内容から、加西の歴史文化の特徴を示すものとしてあげられた歴史文化遺産を抽出・整理すると、個別の歴史文化遺産では、「五百羅漢」が11件と最も多く、「一乗寺」が8件、「玉丘古墳群」が7件、「根日女の伝説」が6件、「北条節句祭」と「鶉野飛行場跡」がそれぞれ5件と続いている。
- ・個別の歴史文化遺産の名称をあげていない抽象表現での回答も含めて整理した類型別で見ると、「遺跡・遺構」が39件と最も多く、中でも「古墳」が20件と半数以上を占める。「寺社」が29件、「石造物」が25件、「説話・伝承」が22件と続いている。「説話・伝承」の中では、『播磨国風土記』が17件と大半を占める。
- ・「その他」として、文化継承に向けた取り組みが積極的に進められていることもあげられた。

表47 加西市の歴史文化の特徴を大きく捉えた表現

類型	回答数	類型に含めた具体的な記述例
古くから連綿と続く歴史文化である	10	・連綿と続く歴史 ・古くからの歴史 ・悠久の歴史を感じさせる ・古くから開けた土地 ・古代から近世に至るさまざまな歴史文化遺産
豊富な歴史文化遺産を有する	7	・数多くの歴史文化遺産 ・多くの文化財 ・古い時代に栄えたものが多い
豊かな自然に育まれた歴史文化である	4	・豊かな自然 ・豊かな自然と気候に恵まれた ・自然環境豊かな
その他	14	・その時々日本史にも関連する ・典型的な日本の歴史をもつ ・位置と地形が大きな影響を与えてきた ・独立した個性ある文化圏 ・類例が少ない歴史文化遺産をもつ ・自然のまま残る ・おだやかな地域 ・地味で落ち着いた ・農村文化 ・石の文化 ・花のまち ・人の手でつくりあげてきた ・発展の歴史

表 48 加西の歴史文化の特徴を示すものとしてあげられた歴史文化遺産

類型		歴史文化遺産の名称等	回答数		
寺社		一乗寺	8	29	
		酒見寺	3		
		住吉神社	2		
		普光寺	1		
		久学寺	1		
		寺社	14		
石造物		五百羅漢	11	25	
		古法華石仏	2		
		長の石山と長石の歴史	1		
		石仏・石造物	11		
祭事・芸能		北条節句祭	5	10	
		播州歌舞伎／高室芝居	2		
		祭り	3		
説話・伝承	播磨国風土記	根日女の伝説	6	17	22
		播磨国風土記	11		
		説話・伝承	5		
遺跡・遺構	古墳	玉丘古墳群	7	20	39
		後藤山古墳	1		
		古墳	12		
	集落遺跡	集落遺跡	2	2	
	城跡	善坊山城跡	1	2	
		城跡	1		
	街道	街道	2	2	
		戦争遺跡	鶴野飛行場跡	5	
	青野原捕虜収容所跡		1		
	戦争遺跡		1		
	遺跡	6			
自然	ため池	ため池	5	10	
	里山	里山	2		
	生態系	多様な生態系	1		
	その他	四季折々の太陽の眺め	1		
		自然	1		
町並み		北条の宿	4	5	
		町並み	1		
生業		田園風景（田園都市・田園地帯）	9	12	
		農業	2		
		農産物	1		
その他	文化継承の取り組み	小中学校での取り組み（五百羅漢や播州歌舞伎）	2	3	5
		こども狂言塾	1		
	施設	フラワーセンター	1	1	
	複合資源	赤穂義士ゆかりの地	1	1	

※ 網掛け表示は具体名称をあげていない回答

設 問 ②

加西市の歴史文化遺産のうち、大切だと思うもの（最大3つまで）とそう思う理由をお教えてください。
また、それらの歴史文化遺産の「まちづくりや観光への活用のあり方」について、それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで、○をつけてください。

【母数:115】【回答数:101、特にない:13、無回答:1】

● 大切だと思う加西市の歴史文化遺産（表 49）

- ・ 101 町・区から合計 278 件の歴史文化遺産があげられた。
- ・ 類型別では、「寺社」が 96 件と最も多く、「遺跡・遺構」が 93 件、「石造物」が 52 件と続いている。
- ・ 「一乗寺」が 62 件と最も多く、「玉丘古墳群・玉丘史跡公園」が 57 件、「五百羅漢」が 36 件、「鶉野飛行場跡」が 26 件、「北条節句祭り」が 11 件と続いている。

表 49 大切だと思う加西市歴史文化遺産

類型	歴史文化遺産の名称等	回答数	
寺社	一乗寺	62	96
	住吉神社	8	
	久学寺	5	
	酒見寺・酒見寺多宝塔	4	
	奥山寺・奥山寺多宝塔	2	
	日吉神社	2	
	石部神社	2	
	羅漢寺	1	
	百代寺	1	
	三寺街道（大信寺・西岸寺・妙典寺）	1	
	平野原神社	1	
	磯崎神社	1	
	八王子神社	1	
	各町の寺社	4	
石造物	五百羅漢	36	52
	古法華石仏	7	
	石仏	9	
祭事・芸能	北条節句祭	11	17
	日吉神社大祭	2	
	東光寺の田遊び・鬼会	1	
	網引町の獅子舞	1	
	王子神社の獅子舞	1	
	各町の祭り	1	
説話・伝承	播磨国風土記・根日女の伝説	2	2
遺跡・遺構	玉丘古墳群・玉丘史跡公園	57	93
	鶉野飛行場跡・戦争の教訓	26	
	善坊山城	3	
	後藤山古墳	1	
	駒塚	1	
	ホムチベの井戸	1	
	青野原捕虜収容所跡	1	
	古墳群	2	
	山城跡	1	
自然	古法華自然公園	5	10
	あびき湿原	3	
	ゆるぎ岩	1	
	鏡岩	1	
町並み	北条の宿	3	4
	各町の町並み	1	
生業	富久錦	1	1
その他	北条鉄道	1	3
	古代鏡（展示館）	1	
	壁画（播磨農校の裏手）	1	

※ 網掛け表示は具体名称をあげていない回答

● 大切だと思う理由（表 50・51）

- ・「国宝や重要文化財として価値が認められていること」、「長い歴史があり、地域の歴史を知る手掛かりになること」、「希少であること」、「由緒や謂れ・語り継がれてきた伝説があり、歴史ロマンを感じられること」、「地域住民の心の拠所であること」、「市や地域のシンボリックな位置づけであること」等が多く挙げられた。一方で、「知っている程度（65 件）」、「無回答（39 件）」も多かった。

表 50 大切だと思う理由（1 / 2）

類型	歴史文化遺産	大切だと思う理由	回答数
寺社	一乗寺	国宝や重要文化財がある	17
		西国三十三所霊場の一つである	14
		歴史的な建築物がある	3
		天台宗の名刹である	3
		由緒がある	2
		市内仏教文化の代表である	2
		山岳仏教の荘厳さがある	1
		人々の心の拠所である	1
		市を代表する歴史文化遺産である	1
		紅葉の名所である	1
		よく整備されている	1
	住吉神社	北条地区を一つにする大きなシンボルである	1
		地域変遷の元となった寺社である	1
		創建 1300 年の歴史がある	1
		加西市の大切な文化財である	1
		節句祭がある	1
	久学寺	由緒がある	2
		赤穂義士ゆかりの三がく寺の一つである	1
	酒見寺	歴代朝廷の帰依が深く、徳川家勅使の参詣もあった	1
		地域変遷の元となった寺社である	1
	奥山寺	地域の歴史がわかる	1
	日吉神社	伝統行事を続けている	2
	石部神社	門杉は手植えの千年杉である	1
	百代寺	歴史がある	1
	三寺街道（大信寺・西岸寺・妙典寺）	雰囲気と立派な建物が優れている	1
	乎疑原神社	歴史がある	1
	八王子神社	地域の歴史がわかる	1
	各町の寺社	歴史がある	1
		神輿・屋台が出る数少ない祭りと共に残したい	1
		市民に知ってもらいたい	1
		人々の強い絆の源となっている	1
石造物	五百羅漢	全国的にも数少なく、珍しいものである	4
		市内の石造物・文化財の代表である	3
		色々な顔があって個性がある	3
		歴史ロマンや郷愁を感じる	3
		神秘的な要素がある	1
		お盆の灯明などの行事が心に残る	1
	古法華石仏	日本最古の石仏である	2
		重要文化財である	2
		文化伝来を知るロマンがある	1
		自然と調和した静かな環境下にある	1
	石仏	加西市の大切な文化財である	1
		かくれキリシタンの存在を知ることできる	1
祭事・芸能	北条節句祭	多くの人に運営され、人のつながりをつくる	2
		伝統を受け継いでいる	2
		市内最大の祭りである	1
		他とは異なり春に行われる	1
	東光寺の田遊び・鬼会	約 1300 年以上も受け継がれている	1
	王子神社の獅子舞	伝統を受け継いでいる	1
	各町の祭り	人のつながりをつくる	1

※ 網掛け表示は具体名称をあげていない歴史文化遺産に対する回答

表 51 大切だと思う理由（２／２）

類型	歴史文化遺産	大切だと思う理由	回答数
遺跡・遺構	玉丘古墳群・玉丘史跡公園	風土記にある根日女伝説の舞台で、歴史ロマンがある	11
		県内屈指の前方後円墳である	4
		古くから開けていたことが知れる地域の源である	2
		加西市のシンボリックなものである	1
		古代から近代までの長いスパンで歴史を学べる	1
		公園としても利用価値がある	1
	鵜野飛行場跡・戦争の教訓	戦争の悲惨さを知り、平和学習の原点となる	9
		国内でも珍しく、近畿には数少ない戦争遺跡である	2
		数多くの戦争遺跡が集積している	1
		観光活用に期待ができる	1
自然	古墳群	目に見える歴史である	1
	山城跡	文化的側面と受け継ぐための地域活動が素晴らしい	1
	古法華自然公園	豊かな自然・自然風景がある	2
		歴史文化遺産が多くある	1
	あびき湿原	貴重な生態系が残っている	2
町並み	ゆるぎ岩／鏡岩	言い伝えがあり神秘的である	1
	北条の宿	加西のイメージを形成している	1
		文化財の宝庫である	1

※ 網掛け表示は具体名称をあげていない歴史文化遺産に対する回答

● まちづくりや観光への活用のあり方（図 11、表 52）

- ・回答された 278 件の歴史文化遺産のまちづくりや観光への活用のあり方については、「積極的に活かすべき」が 257 件と最も多く、大半を占めており、「活かさなくてよい」が 6 件、「わからない」が 8 件であり、7 件が無回答であった。（図 11）
- ・「活かさなくてよい」「わからない」の回答があった歴史文化遺産は表 52 のとおりである。

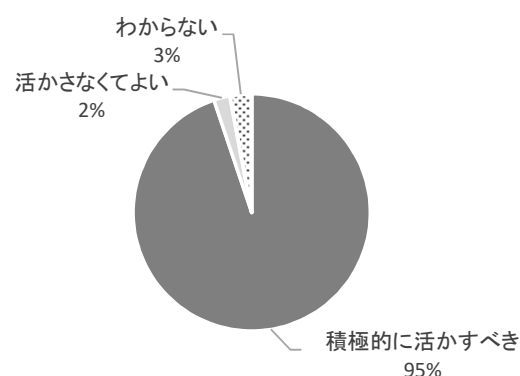


図 11 まちづくりや観光への活用のあり方に対する回答の全体傾向

表 52 「活かさなくてよい」「わからない」の回答があった歴史文化遺産

類型	歴史文化遺産	回答数			
		積極的に活かすべき	活かさなくてよい	わからない	計
寺社	一乗寺	57	1	3	61
	酒見寺	2	0	1	3
	各町の寺社	3	0	1	4
石造物	五百羅漢	34	2	0	36
遺跡・遺構	玉丘古墳群	48	1	1	50
	玉丘史跡公園	3	0	1	4
	鵜野飛行場跡	25	1	0	26
	戦争の教訓	0	1（観光には）	0	1
自然	古法華自然公園	4	0	1	5

※ 網掛け表示は具体名称をあげていない歴史文化遺産に対する回答

調査2 町・区の歴史文化遺産について

設問③

あなたの町・区を代表すると思う歴史文化遺産（最大3つまで）をお教えてください。
また、それらのまちづくりや観光への活用のあり方について、「活用意向の選択肢」から、
それぞれあてはまる番号を1つずつ選んで、「活用意向」の欄にご記入ください。

【母数:115】【回答数:72、特になし:33、無回答:10】

● 町・区を代表すると思う歴史文化遺産（表53）

- ・72町・区から合計144件の歴史文化遺産があげられたが、必ずしも自身の町・区の歴史文化遺産をあげているわけではなく、他の町・区の歴史文化遺産をあげている回答も多数見られた。
- ・類型別では、「建造物」が70件と最も多く、「遺跡」が35件、「祭事・芸能」が19件、「自然」が13件と続く。また、「建造物」については、「神社」が30件、「寺院」が20件、「石造物」が19件であった。

● まちづくりや観光への活用意向（図12、表53）

- ・まちづくりや観光への活用については、「1. 地域外の人々にも公開・情報発信し、積極的にまちづくりや観光に活用したい」の回答が25%、「2. 条件が整えば、まちづくりや観光に活用したい」の回答が27%であり、歴史文化遺産をまちづくりや観光に前向きに活用したいとする意向が約半数を占めた。
- ・「3. 観光には活用せず、町・区民の財産として町・区のまちづくりに活かしたい」の回答が28%、「4. 活用は考えられず、次の世代に受け継ぐだけでよい」の回答が15%であり、観光には活用せずに、地域の歴史文化遺産として大切にしたいという意向が43%であった。
- ・類型別並びに個別の歴史文化遺産の活用意向は表53のとおりである。

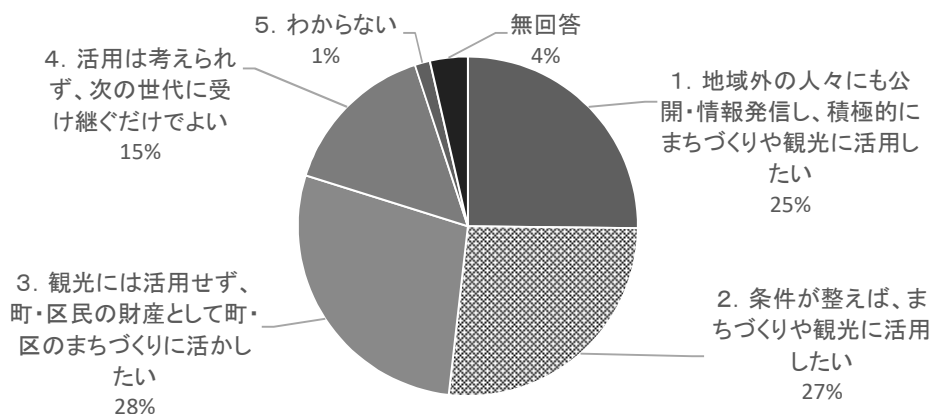


図12 町・区の歴史文化遺産のまちづくりや観光への活用意向の全体傾向

表 53 重点的に保存活用に取り組みたい歴史文化遺産と活用意向

種類			重点的に保存活用に取り組みたい歴史文化遺産と活用意向					件数
			積極活用	条件次第	観光活用なし	活用なし	わからない・無回答	
建造物	建築物	寺院	・酒見寺 ・百代寺 ・一乗寺(2)	・清水寺庚申堂 ・周遍寺 ・百代寺 ・一乗寺 ・薬師堂	・見性寺 ・正楽寺 ・古法華観音堂 ・清水寺庚申堂 ・福性寺 ・弥勒庵	・阿弥陀堂 ・大日堂 ・薬師堂	・多門寺 ・一乗寺	20
		神社	・石部神社 ・栗田熊野神社 ・乎疑原神社(2)	・磯崎神社 ・岩崎神社 ・剣之宮王子神社 ・河上神社 ・大歳神社(2) ・大將軍神社 ・高峰神社 ・日吉神社	・磯部神社(2) ・鶯野上天満宮 ・金毘羅宮 ・大歳神社(3) ・剣之宮王子神社 ・天神社 ・日吉神社 ・八幡神社	・磯崎神社(2) ・稲荷神社 ・乎疑原神社 ・住吉神社	・乎疑原神社	30
		鉄道	・北条鉄道駅					1
	石造物		・五百羅漢(2) ・古法華石仏(3) ・西向き地藏	・阿弥陀寺のあごなし地藏 ・大村石仏 ・上宮木石仏 ・石造五重塔 ・大日寺の石仏 ・薬師堂石造 ・山伏峠石仏	・阿弥陀寺の石仏 ・倉谷石仏 ・薬師堂板碑 ・六地藏	・十字架地藏	・古法華石仏	19
				・観音堂内の三体の仏像 (十一万観音立像他)				1
美術 工芸品	彫刻							1
祭事・芸能			・大歳神社節句祭 ・節句祭り屋台 ・高峰神社秋祭り ・東光寺の田遊び・鬼会	・石部神社の秋祭り ・金刀比羅神社の収穫祭 ・四国88カ所お大師さん ・初庚申祭 ・天神大祭	・石部神社の川下祭り ・祇園神社の夏祭り ・バカ音頭 ・普明寺の地藏盆 ・薬師堂での数珠繰り	・御旅町屋台 ・獅子舞 ・大歳神社の夏祭り ・大師講や薬師講 ・神社のお当		19
説話・伝承			・鹿咋山の伝承 ・乳の出る井戸 ・ホムチベの井戸	・修布の井 ・女切峠	・朝日長者の民話 ・駒塚	・ハクサ権現 ・在田小路神水井戸 ・女郎塚		10
遺跡	城館跡	・善坊山城 ・山下城跡			・野上構居(2) ・千歳山城跡 ・土器山城跡 ・田原城跡		・笹倉城跡	8
	寺社跡			・吸谷廃寺	・敬光寺跡	・野条廃寺 ・繁昌廃寺		4
	古墳 ・横穴	・玉丘古墳 ・玉丘史跡公園 ・亀山古墳	・後藤山古墳 ・剣坂大塚古墳 ・堂山古墳	・後藤山古墳 ・大村古墳 ・女鹿山の古墳		・女鹿山の古墳		10
	戦跡等	・鶯野飛行場跡(2)	・鶯野飛行場跡 ・稲荷山配水池	・青野原俘虜収容所			・下宮木町の小畑池 の防空壕	6
自然			・ゆるぎ岩(2) ・ため池 ・八王子神社愛宕山 ハイキングコース ・古法華自然公園	・大谷不動の滝 ・お葉付イチョウ ・水正池(白鳥)	・愛宕山 ・権現山	・ため池	・あびき湿原	12
生業			・ブドウ畑			・農業近代化パイロ ットファーム		2
その他			・大谷武一氏(ラジオ体 操第一の考案者のひ と)	・グリーンスポーツ広 場アクアスカさい				2

※ 括弧内の数字は重複件数を示す。

※ 積極活用：地域外の人々にも公開・情報発信し、積極的にまちづくりや観光に活用したい

条件次第：条件が整えば、まちづくりや観光に活用したい

観光活用なし：観光には活用せず、町・区民の財産として町・区のまちづくりに活かしたい

活用なし：活用は考えず、次の世代に受け継ぐだけでよい

わからない・無回答：「わからない」2件、無回答5件

設 問 ④

あなたの町・区において、これまで（現在を含む）保存又は活用に取り組んできた歴史文化遺産があれば、その名称と取り組みの経緯や内容をお教えてください。

なお、他の町・区や団体等と連携・協力して取り組んできた場合は、それらの町・区や団体等の名称もお教えてください。

【 母数:115 】 【 回答数:55、特になし:50、無回答:10 】

● これまで、町・区で保存・活用に取り組んできた歴史文化遺産と取り組みの内容（図 13）

- 町・区が保存・活用に取り組んできた歴史文化遺産としては、54 町区から計 124 件があげられた。「神社」が 46 件と最も多く、「堂・祠」21 件、「祭礼・行事」20 件、「石仏」15 件と続いている。

※歴史文化遺産として、神社や寺院の名称が回答されているものは、それぞれ「神社」「寺院」、祭礼や行事の名称が回答されているものは「祭礼・行事」に分類している。

- 取り組みの内容の全体傾向としては、「祭礼・行事の継承」が 52 件、「清掃・維持管理」が 46 件と多い。中には、祭礼・行事に使う「用具の補修・新調」や屋根の建物の葺き替えなどの「修理・修繕」の回答もみられ、建物や用具等の老朽化が進んでいる状況がうかがえる。また、案内板の設置等の「施設等整備」、「調査・冊子等の製作」、ガイド等の「広報・普及活動」、「イベントの開催」といった積極的な保存・活用の取り組みも、少ないながら見られる。

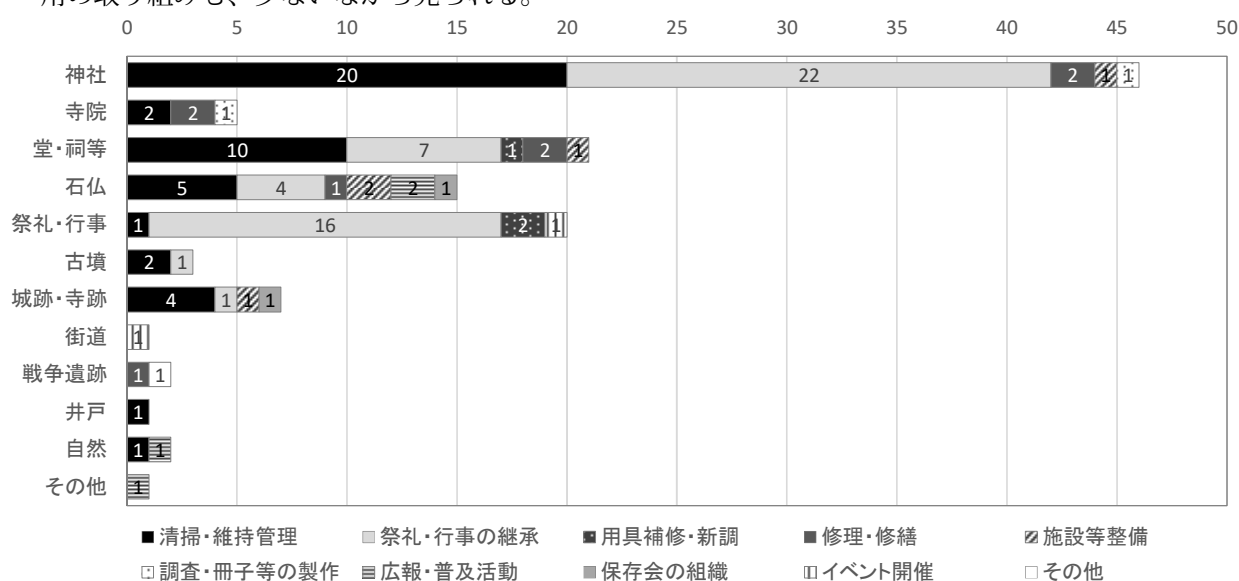


図 13 これまで、町・区で保存・活用に取り組んできた歴史文化遺産と取り組みの内容

● 保存・活用に連携・協力して取り組んできた組織（図 14）

- 連携・協力して歴史文化遺産の保存・活用に取り組んできた団体については、54 件の回答が見られたが、特定の団体ではなく町全体で取り組んでいるという回答が 34 件と多数を占めた。
- 個別の歴史文化遺産の保存会等が 10 件、町内の自治会・老人会・青年会・婦人会・子供会等が 12 件、町内の隣保が 2 件であった。
- 他区町等との連携は 16 件であるが、「神社氏子／寺院檀家」の 9 件も町域を超える取り組みと想定される。

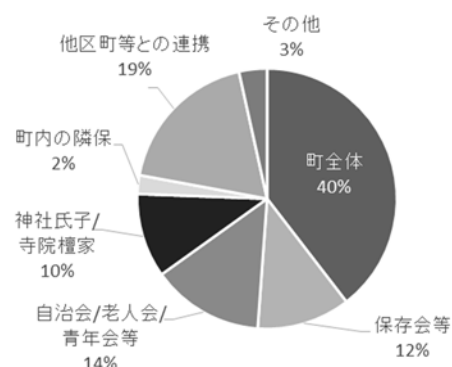


図 14 保存・活用に連携・協力して取り組んできた組織

設 問 ⑤

あなたの町・区において、今後、重点的に保存又は活用に取り組んでいきたい歴史文化遺産があれば、その名称と取り組みたい内容とその理由をお教えてください。

【 母数:115 】【 回答数:51、特にない:71、無記入:13 】

● 今後、町・区で重点的に保存・活用に取り組みたい歴史文化遺産と取り組みたい内容（表 54）

- ・「特にない」が 71 件（61.7%）に上った一方で、複数の歴史文化遺産を回答する町・区も見られた。
- ・表 54 の 50 件が挙げられ、具体的な内容としては補修や周遊のための道や案内板等の整備等が多い。

表 54 今後、町・区で重点的に保存・活用に取り組みたい歴史文化遺産と取り組みたい内容

類型		件数	歴史文化遺産	取り組みたい内容
建造物	建 築 物	8	・久学寺（山門、仁王像）	補修（老朽化が激しく、補修等が至急）
			・庚申堂（野条町）	従来通りの保存
			・金剛寺	従来通りの保存
			・酒見寺	—
			・正楽寺	寺の裏山に点在する石仏をめぐる道づくり
			・大師堂（東南）	—
			・大師堂（畑町）	堂の改修
			・大日寺	石仏等の保存、大日寺の改修
	神社	10	・磯部神社	—
			・河上神社	周辺整備、小宮の改修、小島居の改修
			・神蔵神社	熊野神社を中心とした桜の植樹、周辺整備、東屋より西の桜並木の拡張、玉垣の修復
			・栗田熊野神社	
			・酒見大明神（住吉神社）	
			・平疑原神社	情報発信による参拝者等の増加・観光活用
			・金刀比羅神社	—
			・大歳神社（野条町）	従来通りの保存
	その他	1	・妙見神社	—
			・大將軍神社	—
	石造物	8	・女郎塚	—
			・あごなし地藏（阿弥陀寺）	—
			・阿弥陀寺石仏	石仏の補強、修復工事
			・倉谷石仏	—
			・五百羅漢	—
			・八十八カ所の石仏（畑町）	石仏の改修
			・古法華石仏	（加古川の加光会信者の高齢化が課題）
			・西向き地藏	—
祭事・芸能		7	・山伏峠石仏	解説板の設置
			・秋祭り屋台（窪田町）	（平成 29 年度から 3 年計画で修理予定）
			・節句祭の屋台（南町）	屋台提灯の保全・改修（計画中。破損が激しいため）
			・本町区屋台	隣接町や他市町からの支援による運営（高齢化による存続への危機感）
			・愛宕さん（福吉町）	—
			・阿弥陀堂の数珠繰り	文化遺産として守りたい
			・獅子舞	
遺跡	寺社跡	2	・千旦参り	
			・敬光寺跡	—
	古墳・横穴	4	・野条廃寺跡	従来通りの保存
			・後藤山古墳	—
			・皇塚古墳	散策できる登山ルート整備
			・堂山古墳	古墳周囲の整備
			・女鹿山古墳(2)	前方後円墳かどうかの確認調査
	戦跡等	3	・赤山防空壕跡	（長年放置され、実態を知る人も少なくなっている）
			・稲荷山配水池	登山道の整備
			・鶉野の戦争遺産	（鶉野平和記念の碑苑保存会の活動方針に同じ）
	その他	1	・ホムチベの井戸	紀元前の井戸かの再調査
			・大谷不動の滝	沿道の整備（荒れて参詣者が減った）、案内板等の設置
自然	地形	4	・女切峠	—
			・鹿咋山	—
			・善坊池から大歳神社エリア	善坊山登山者が足を延ばせる善坊池から大歳神社のコース整備
			・大谷武一氏	大谷武一氏の遺徳継承とラジオ体操の更なる普及促進
その他		2	・アクアス広場	—
			・大谷武一氏	大谷武一氏の遺徳継承とラジオ体操の更なる普及促進

※ 「—」は取り組みたい内容の回答がないもの。括弧書きは課題についての回答。

設 問 ⑥

設問③～⑤のような歴史文化遺産の保存又は活用の取り組みを進める際、次の各項目は、あなたの町・区では、どのくらい課題であると思われますか。

項目ごとにあてはまる番号を1つずつ選んで、○をつけてください。

【母数:115】【回答数:85、無回答:30】

● 歴史文化遺産の保存・活用にあたっての課題（図15・16）

- 「課題である」を1点、「課題でない」を5点とした平均点により、回答の傾向をみると（図15）、いずれの項目も「課題である」から「やや課題である」という回答が多く、特に、「イ. 資金面の負担」や「ア. 取り組みのための人手・人材」を「課題である」とする回答が多い。
- 個々の項目ごとでみると（図16）、いずれの項目についても、「課題である」と「やや課題である」の合計が60%を上回り、中でも「イ. 資金面の負担」では84.3%に上る。
- 「その他」としては10件の回答があり、人手・資金・対象となる歴史文化遺産等の面から、町単位のみで取り組むことの難しさに言及する傾向が見られた。

取り組む上での課題（その他）

- ・該当なしのため不明。
- ・地域の歴史を理解できていないので、伝承が難しいことも多い。
- ・町・区で取り組むにはすべてにおいて無理がある。
- ・町と関係団体や機関との連携。
- ・当町には全く歴史文化遺産となるものがない。
- ・何をするにもお金と人力が必要。
- ・ハイキングコースの案内に設問⑤のコースを加えれば満足度が上がると思う。
- ・町の課題ではなく市のやる気、イニシアティブの問題。
- ・屋台運行上の人手・資金が課題。
- ・歴史にこだわっている場合ではない。町の未来のほうが問題である。

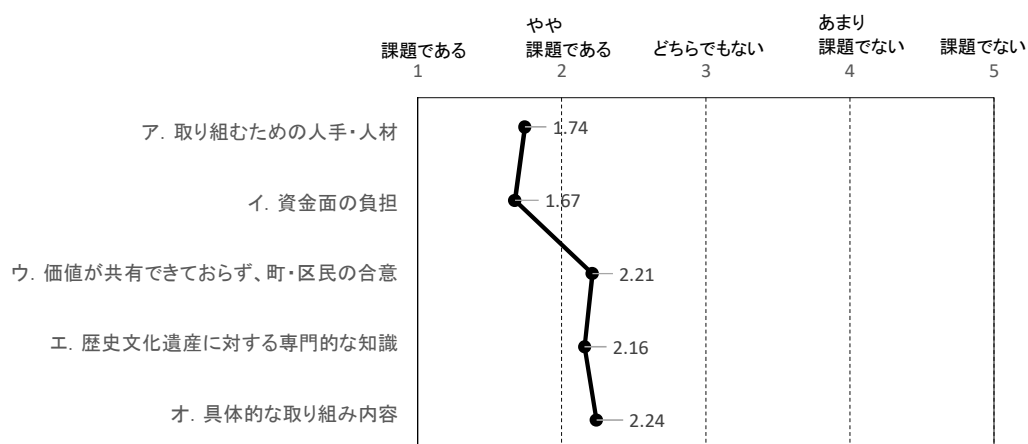


図15 歴史文化遺産の保存・活用にあたっての課題（平均値による全体傾向）

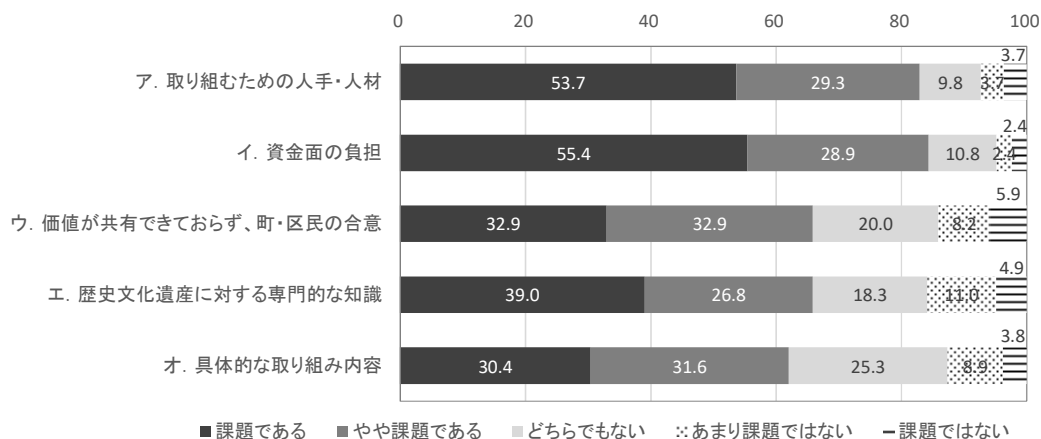


図16 歴史文化遺産の保存・活用にあたっての課題（項目別集計）

調査3 加西市における、今後の歴史文化遺産を活かしたまちづくりについて

設問⑦

加西市において、今後、歴史文化遺産を活かしたまちづくりや観光を進める際、次の各項目はどのくらい重要だと思いますか。

【母数:115】【回答数:113、無回答:2】

● 今後の加西市における歴史文化を活かしたまちづくりにあたっての各施策の重要度（図17・18）

- ・「重要である」を1点、「重要でない」を5点とした平均点により、回答の傾向をみると（図17）、いずれの項目も「重要である」から「やや重要である」という回答が多く、特に、「ア. 町・区ごとの歴史文化遺産のリストアップや価値評価等の継続的な調査の実施」を「重要である」とする回答が多い。
- ・個々の項目ごとでみると（図18）、「重要である」と「やや重要である」の合計が70%を上回る項目が大半を占め、最も低い「エ. 専門家の派遣や相談窓口の設置、活動助成等の地域の取り組みへの支援」でも69.6%である。
- ・「その他」としては、継続的な視点で若者、次世代の関心づくりに取り組みたいという考えや、古代鏡の解説イベントの好評が見られた。

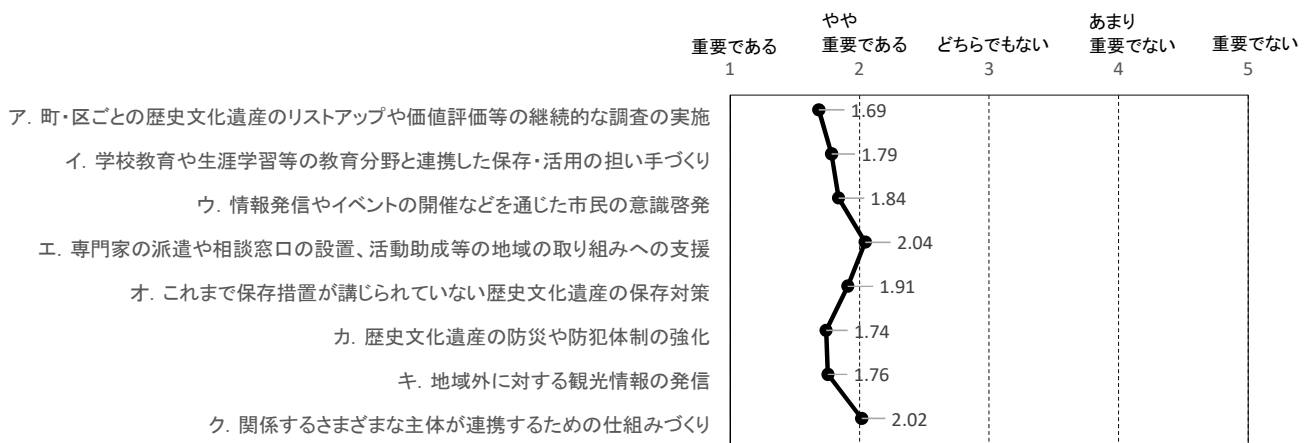


図17 今後の加西市における歴史文化を活かしたまちづくりにあたっての各施策の重要度（平均値による全体傾向）

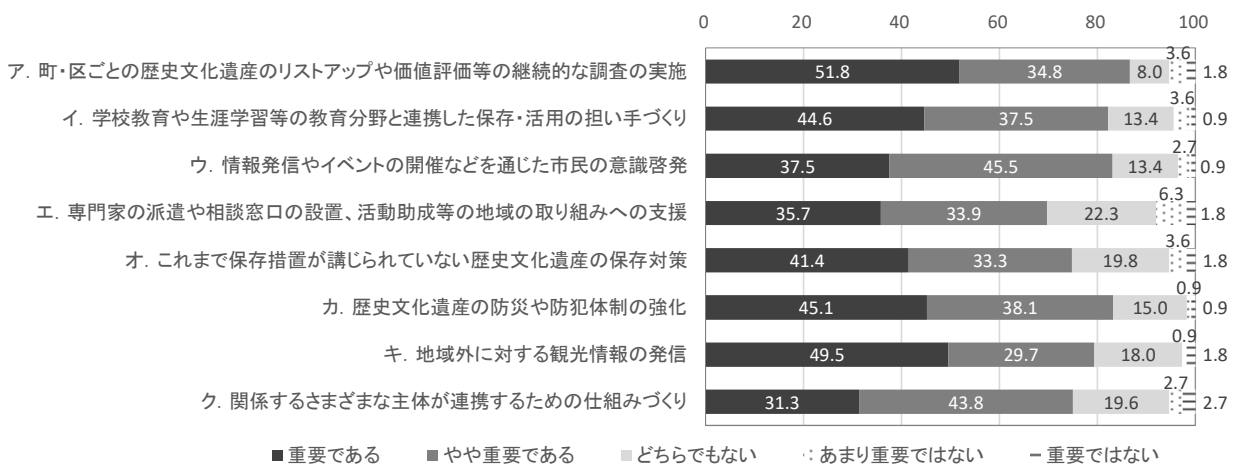


図18 今後の加西市における歴史文化を活かしたまちづくりにあたっての各施策の重要度（項目別集計）

設 問 ⑧

加西市における歴史文化遺産を活かしたまちづくりや観光について、ご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

【 母数:115 】 【 回答数:48、特にない:53、無回答 14 】

● 加西市における歴史文化を活かしたまちづくりや観光に対する意見（表 55・56）

- ・歴史文化遺産を活かしたまちづくりや観光についての意見では、今後の情報発信への期待、環境整備の要望が多数を占める。
- ・特に、加西市は豊かな歴史文化遺産を有しているにもかかわらず外部への情報発信が不足していることを指摘する声が大きかった。さらに、その改善のためには町ごとの知識しかない現状を変えるべく、市民向けの周知や学習の機会が必要であると、考える意見も複数見られた。
- ・歴史文化遺産の保存・整備と、観光推進への展開を連続的に捉えた要望も見られた。
- ・歴史文化の担い手である若い世代への継承が課題であるという認識もうかがえた。

表 55 加西市における歴史文化を活かしたまちづくりや観光に対する意見（1／2）

区分	自由意見
環境整備の要望	・歴史的文化遺産を観光するにあたり、各エリアに駐車場の確保をしてほしい。 ・古法華自然公園のベンチ、丸山総合公園のベンチが老朽化している。丸山総合公園の地球儀時計のかけ崩れもみられる。 ・月に一度くらいの割合で歴史文化遺産を回るバスを運行してはどうか。バスとレールバスの連携ができると良い。 ・貴重な戦争遺産である鶴野飛行場跡地の整備について、平和の大切さを知る子どもの教育や大きな観光資源として、大和ミュージアムや知覧特攻平和会館のような整備・活用をしてほしい。 ・市内の歴史文化遺産として最も価値の高い一乗寺の観光資源としての開発に力を入れてほしい。「はなやま」を謳うのであれば、全山にあじさいなどを植え、花の寺を目指してはどうか。 ・まちづくりや観光を推進するには拠点づくりが必要である。 ・法華山一乗寺の奥ノ院まで見学できるよう整備を要望する。看板設置についての再度点検をすべきである。 ・加西市内の言い伝えのある物、話を示す看板の設置を進めるべきである。 ・加西インター周辺の整備が大切である。 ・玉丘古墳があまり手入れされていないように思う。遊具はあの場所には相応しくないのではないか。史跡公園であるならば、一考の必要があると思う。 ・久学寺手前の山居池のガードレールを早急に設置して欲しい（市への申請済み）。
今後の情報発信への期待	・HP、TV、紙面等の他、国内のみならず海外への情報発信（Instagram等）を海外の方から発信してもらうことで、情報発信に広がりが出ると思う。 ・情報発信と併行して文化財の整備や周知に取り組みたい。 ・目玉になる歴史文化遺産を数か所に絞り、市を挙げて補助・整備等を行い、市内外にアピールした方が良い。 ・全国に配信してメディアに注目される特別な一つを見つけて、そこからまちづくりを始めたい。 ・他市に誇る歴史文化遺産を積極的に地域外にアピールして、多くの方々に加西市の存在を知り、来てもらいたい。市内に住んでいながら、他の町にある文化遺産をあまりよく知らないの、市内の人々にも情報発信してほしい。 ・歴史文化遺産の価値の発信をしてほしい。(4) ・市の歴史文化遺産の特色、全容を知る機会が乏しい。まだまだ HP を見られる人は少ないと思う。例えば町内会欄で「歴史再発見!」瓦版で 1 件ずつでも周知・理解していくことも必要と思う。 ・市外の方に PR する積極性が足りない。 ・鶴野飛行場プロジェクトを成功させ、大々的に地域内外に発信をしてほしい。 ・加西市の歴史文化遺産が具体的に分からない。市民への情報発信を積極的に行う必要がある。 ・文化遺産や観光の情報を新聞やネットなどで発信すべきである。 ・外部への情報発信が弱いと思う。歴史文化遺産を使ったイベントの積極的な計画が必要である。 ・広報誌、テレビ等で情報発信しており効果的であるが、一回きりの発信ではなく、同じ情報でも何回も繰り返すことで広範な周知が得られると思う。

表 56 加西市における歴史文化を活かしたまちづくりや観光に対する意見（2／2）

区分	自由意見
歴史文化遺産の保存・整備と観光推進への期待	・寺社仏閣と宿場町の景観を保存し、節句祭、屋台等も含めて観光地としての取り組みをしたい。 ・稲荷山配水池に関する資料があったら教えてほしい。全容がわかれば保存にもっと前向きになれると思う。水源地から稲荷山配水池を経て鵜野飛行場への排水管のルートが知りたい。 ・市が中心で行うか、各町に委譲するかを区別し、重要度の順を決めて開発・保存を行うべきである。 ・近隣市町村と協力して新しい文化遺産を見出し、観光資源にしていってほしい。 ・加西能での狂言「根日女」、能「針間」はすばらしい。今後も継続してほしい。 ・丸山公園、玉丘史跡公園など整備した後の活用ができていない。市内外の人が訪れたくなるような日曜日の朝市等のイベントをもう少し考えてほしい。
市民意識の向上、協力の必要性	・市民が意識を持って、考え、行動することが大切である。 ・歴史文化遺産を大切に活かしていくことに協力したい。 ・小さな村では維持管理が精一杯である。高齢化が進む中、市のシルバー人材を使って維持・管理も必要と考える。 ・市外に発信するために、市民がもっと意識改革をして、知識を持つべきである。
今後のまちづくりの重要性と展望	・少子化等によってあまり人口増加は望めない中で、住んでみたい町づくりにいかに市が本腰を入れて取り組むかが、今後さらに問われると考える。 ・各町にある歴史文化遺産をどう活用してまちづくりをしていけばよいのか、専門的な立場から指導していただくシステムがあればよいと思う。 ・土産、農産物、宿泊、観光地、イベント等、トータルで作り上げ、フラワーセンターから市内各地へ周遊し、かつ2度3度と訪れたくなるようなまちづくりが大切である。 ・歴史文化遺産も大事であるが、現在の加西に住む若い世代や子どもたちに加西の歴史文化が継承されているのかが問題である。その若い世代が市外に流出し、急速に少子高齢化が進んでいく状況で、次世代のニーズに合ったまちづくりとなるのかどうか。限られた資源を大事にすべきであると思う。 ・校区にある歴史文化遺産を小学生から学習に取り入れ、もっと自分たちの地域を知ることが大切にするべきである。 ・埋もれているものがあれば価値を見出して活かしていければよいと思う。 ・北条の町並みの保存、戦争遺産への取り組みと市の積極的な姿勢が感じられる。1300年祭は大規模で市をかなりPRできたと思う。
その他意見	・加西市には銅像がないので一体くらいはあっても良いのではないかな。 ・各区・町がバラバラで独自に「おらがお国自慢」をしても他人には響かないと思う。 ・住んでいる場所に誇りが持てる一生を送りたい。行政の指導に関わらず、自分の生き方をして歴史を作っていくことが大切であると思う。他力本願ばかりが目立つが、自慢の故郷をつくりたい。 ・歴史の問題ではない。加西市の未来について考えるべきである。 ・地元負担のかからない方法で考えてほしい。 ・今回のアンケートに基づいて、市民の意見を参考にした企画を検討してほしい。

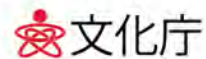
加西市歴史文化基本構想

発行日／平成 30 年（2018）3 月

発 行／加西市

兵庫県加西市北条町横尾 1000 番地

歴史
イーサ
カサイ



平成 29 年度文化遺産総合活用推進事業
（歴史文化基本構想策定支援事業）

歴史 イーナ カサイ